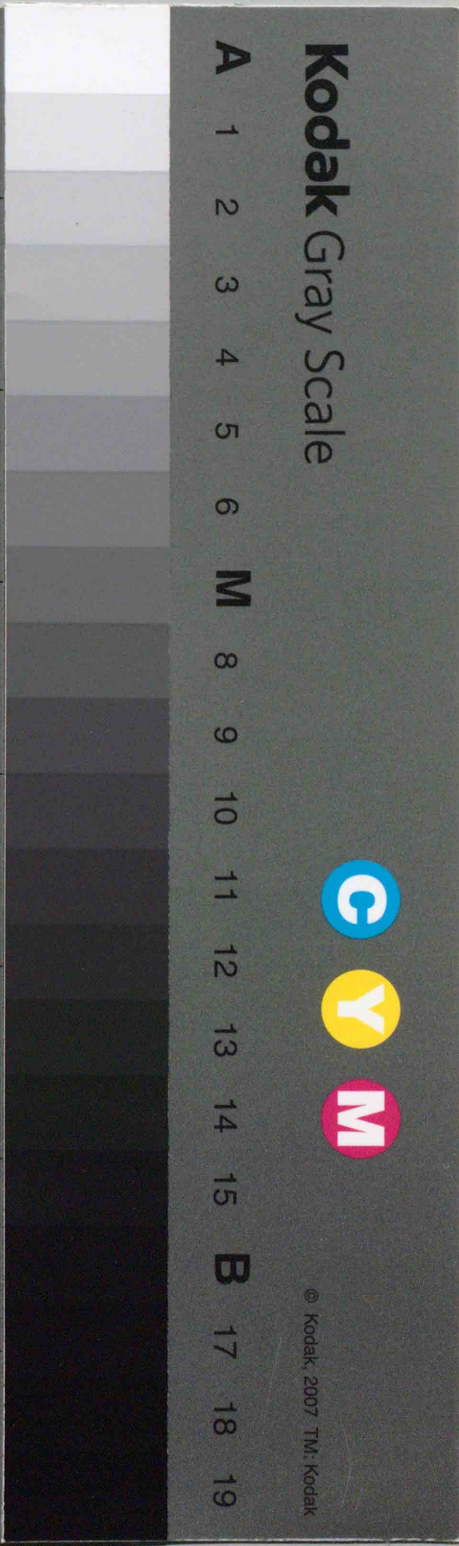
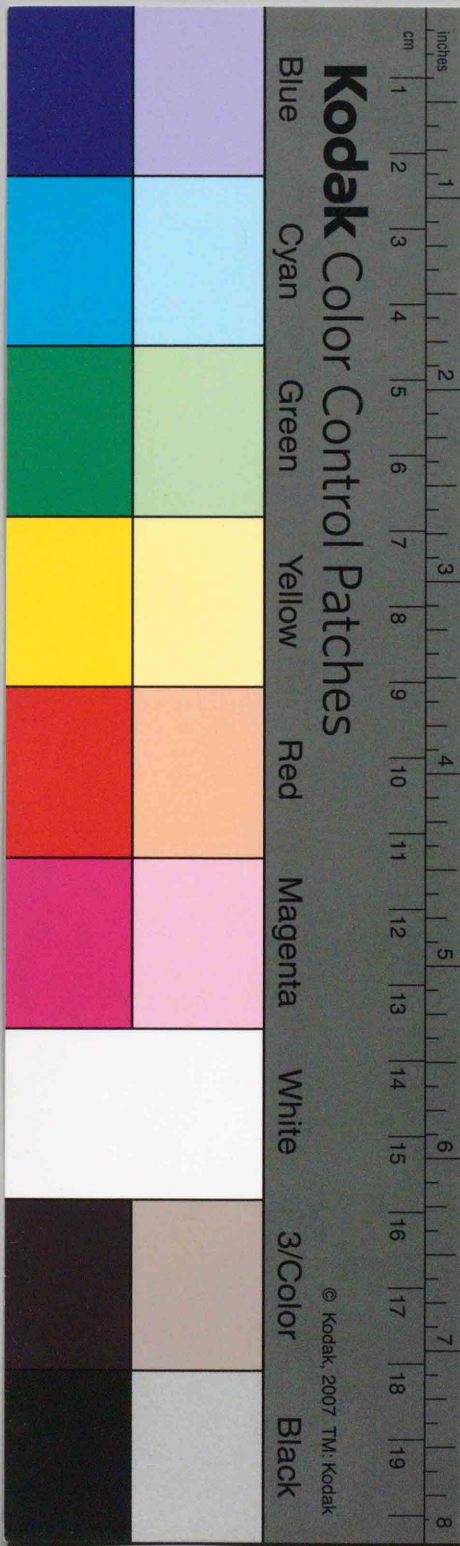


標準  
 書科教科業作  
 篇藝園  
 一卷  
 次寬藤佐  
 著

3759  
 S220  
 資料室



43435

教科書文庫

4
620
31-1935
20003 02813



中央圖書館

資料室

標準  
書科教科業作

篇藝園

授教學大國帝京東

士博學農

次寬藤佐

著



館成開京東

370.7  
5420



ダーリア

薔薇

チウリップ

スキートビーズ

水仙

グロキシニア

モントプレシア

菊

美人蕉

獅子牡丹咲朝顔

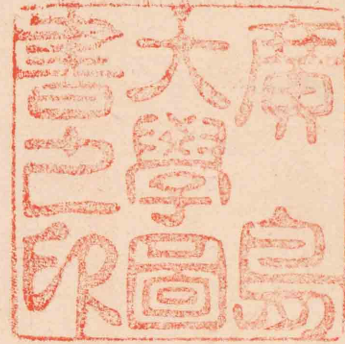
天竺葵

鐵砲百合

三色堇

花 卉





モントプレシア

菊

獅子牡丹咲朝顔

鐵砲百合

グロキシニア

美人蕉

天竺葵

三色堇

ダーリア

薔薇

チウリップ

スキートビーズ

水仙



花 卉

スロキムニヤ

キヒイブムニヤ

藤

藤千世知照

蘭蘭百合

セーリア

薔薇

モウリヤ

スチーイジー

水仙

美人蕉

天竺葵

三色堇

標準作業科教科書 園藝篇 卷一

目次

第一章 校庭の手入	一
○園藝作業 四月	九
第二章 春の草花の手入	二〇
○園藝作業 五月	二六
第三章 花壇の手入	二九
○園藝作業 六月	三〇
第四章 秋の蔬菜の栽培法	三三
○園藝作業 七月	四六
○園藝作業 八月	四七

第五章 秋の草花の手入……………九

○園藝作業 九月……………五

第六章 荳類の栽培法……………六

○園藝作業 十月……………三

第七章 麥の栽培法……………五

○園藝作業 十一月……………七

第八章 養禽 その一……………七

第九章 養禽 その二……………九

○園藝作業 十二月……………六

第十章 園藝用土地……………六

○園藝作業 一月……………三

○園藝作業 二月……………九

第十一章 園藝と肥料……………四

○園藝作業 三月……………五

第十二章 園藝の趣味……………一七



標準作業科教科書 園藝篇 卷一

校庭の手入

第一章 校庭の手入

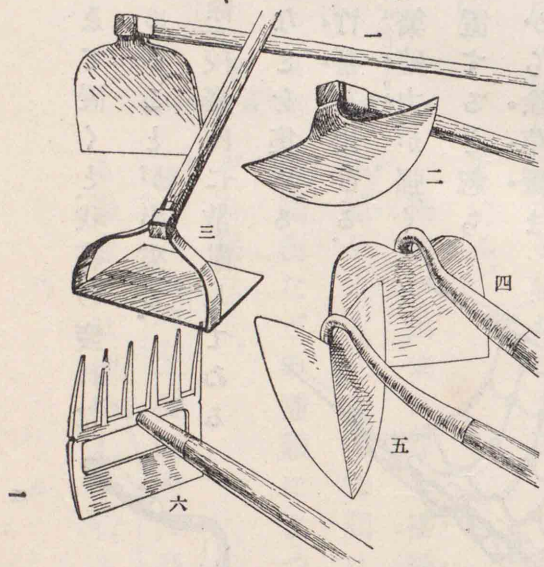
校庭

校庭は、區劃が整然として、

常によく手入されてゐることが望ましい。

運動場は各種の運動競技が出来るやうに整頓し、校庭内の空地はこれを巧みに利用して、芝草花樹木

第一章 校庭の手入



草取用具

- 一ホ(四) (うのんまくか)能萬角(一)
- 一ホンレーツ(五) (うのんまふてい)能萬杏銀(二)
- キーレーホ(六) (うのんまふあ)能萬鏝(三)



校庭の掃除

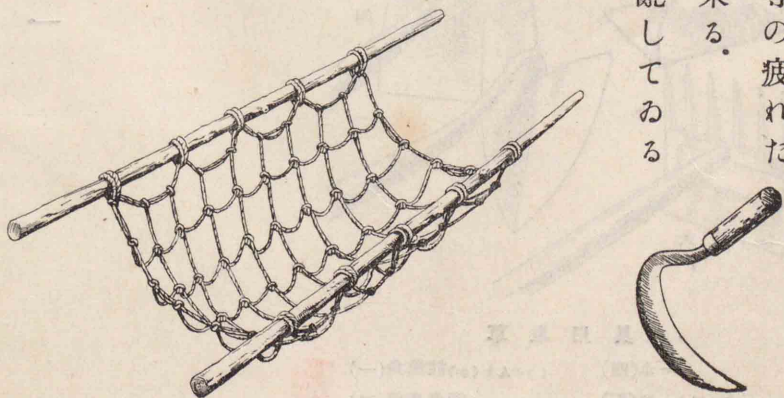


竹 箒

なごを植ゑて置くと、我等の疲れた心身を休めることが出来る。  
**校庭の掃除** 校庭内に散亂してゐる

落葉紙屑かみくずなどを集めるには、普通竹箒を用ひる。雑草は繁殖力はんしょりきょくが強く、これを放置すると忽ち繁茂するから、除草鎌くさざしまたは前圖のやうな草取用具を用ひてこれを除くがよい。

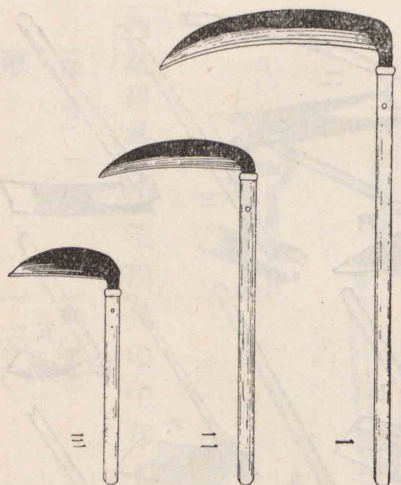
此等のものは、堆肥たいひとして利用されるものはこれを堆肥舎に運び、焼却すべき



二

學校園・農園の設定

校庭の地均し



鎌 通 普  
鎌大(一) 鎌刈草(二) 鎌木(三)

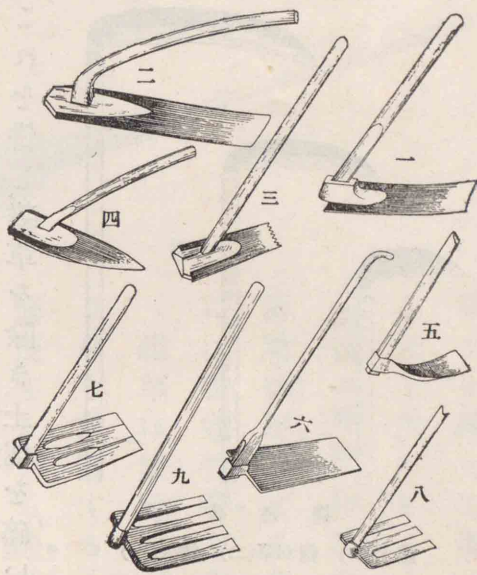
ものは焼却し、その他のものは適當な場所に穴を掘つてその中に入れるがよい。これを運搬うんぱんするには普通擔架たんかを用ひる。

**學校園・農園の設定** 學校内には、校舎の周圍校舎と校舎との間などに空地が多い。此等は學校園や農園などに利用することが出来る。

學校園や農園などを設定するには、まづ豫めその區劃を定め、鋤でこれを耕し、雑草を除き、土塊つゝまいを碎いて土を軟かにする。これを**整地**といふ。

整地が出来たなら、播種はくしゆまたは移植いんじをする。その時期は草花蔬菜さい庭樹などの種類によつてそれぞれ異なる。

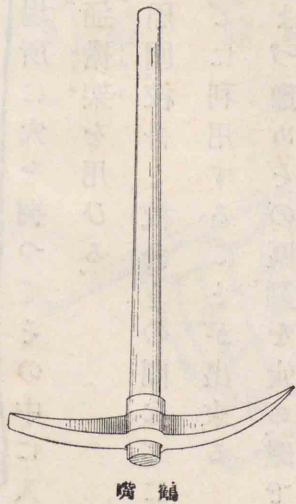
**校庭の地均し** 校庭内に高低のある場合には、地均しを行ふと運動



類種の鍬

鍬通普(一) 鍬(二) 鍬後肥(三) 鍬鋸(四) 鍬金(五) 鍬板(六) 鍬窓(七) 鍬中備(八) 鍬股(九)

場が廣くなり、使用するのに便利になる。地均しをするには、シヨベル、鍬または鶴嘴などで土を切り取り、低い所に盛土をするか、若しくは捨てるのである。土を運ぶ



嘴 鍬

生垣の手入

には、バケツ・竹籠・ふご・畚擔架などを用ひる。また稍遠方に運ぶ場合には、荷車の上に箱を載せたものを用ひることもある。  
生垣には普通に杉・檜・櫨・金

作業用具

作業用具

作業用具の主なものとは次のやうである。

(全校生徒五百名一學級五十名の中學校に於ける一例)

〔品名〕

〔數量〕

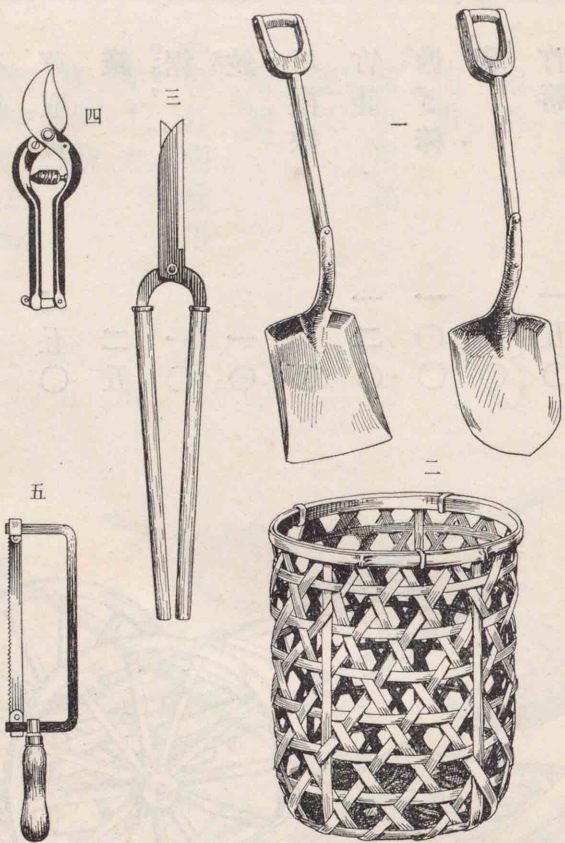
鍬

一三〇

第一章

校庭の手入

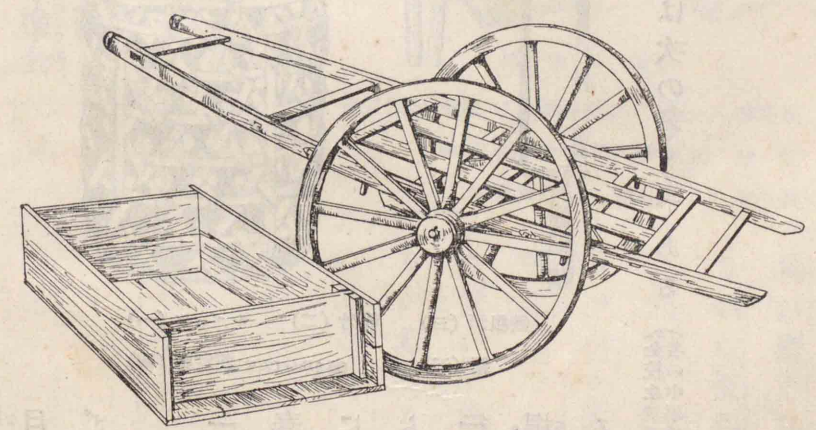
五



ルベヨシ(一) 鍬根垣(三) 籠竹(二) 鋸(五) (みさはいてんせ)鍬定剪(四)

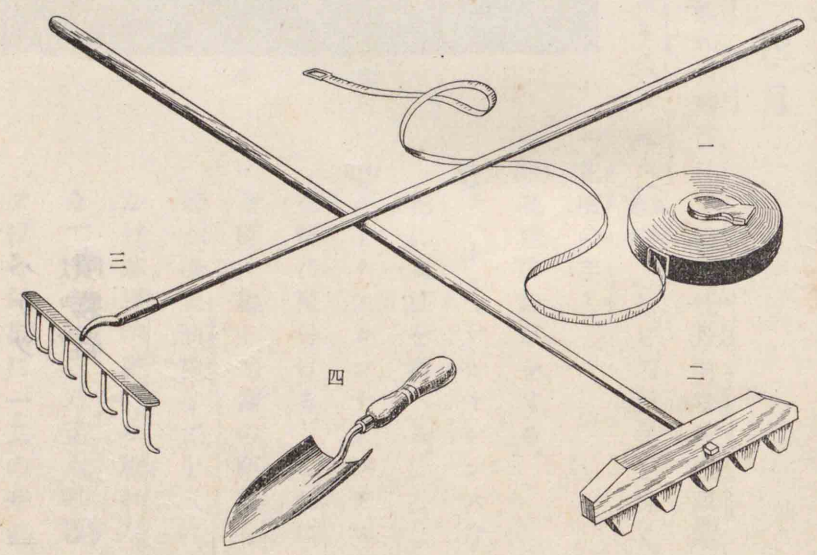
目籜・柯・橋などを用ひる。生垣は春一回または春秋の二回刈込を行ふ。刈込を行ふには、根・鍬を用ひるがよい。

竹箒	箕	擔ぎ棒	竹籠	垣根鋏	鉋	鋸	鎌	草取鎌	平鋤	鶴嘴	鋤簾	シヨベル
一五〇	五〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二五〇	二五〇	五〇	二五〇	五〇	一五〇



箱用車荷(左) 車荷(右)

砂利篩	熊手	荷車	荷車用箱	卷尺	擔架	右の外園藝用として、	ホーク	移植鍬	接木用切出	肥料桶	レーキ	畚
一五〇	一〇〇	二〇	二〇	二〇	二〇		五	二五	五〇	一〇〇	一〇〇	五



鍬植移(四) キーレ(三) 手熊(二) 尺卷(一)

剪定鋏

二五

如露

一〇

発芽試験器

一二

などが必要である。

バケツ

一〇

噴霧器

四

園藝作業  
四月

◎園藝作業 四月

一、春播草花の播種 天人菊、孔雀草、百日草、松葉牡丹、向日葵、雞頭、葉雞頭、鳳仙花、トレニア、ペニバナ、サルギア、コスモス(夏咲と秋咲)などの種子を播く。

一、花壇の手入

① 花壇の除草をする。

② チューリップ、ビヤシンスなどの球根草花に支柱を與へる。

③ ダーリア、カンナ、グラデオラスなどを花壇に植付ける。これには花壇の土を深く起し、適當の距離をおいて穴を掘り、堆肥、油粕などを入れ、少しく土をかけ、球根が肥料に觸れないやうに植ゑて、土を約三乃至六cm覆ふ。ダーリアは各球根に一二の芽のあるやうに



天人菊

球を分ける  
がよい。

⊖ 小菊の株分

小菊の株分を

して、苗床また

は鉢に植ゑる。

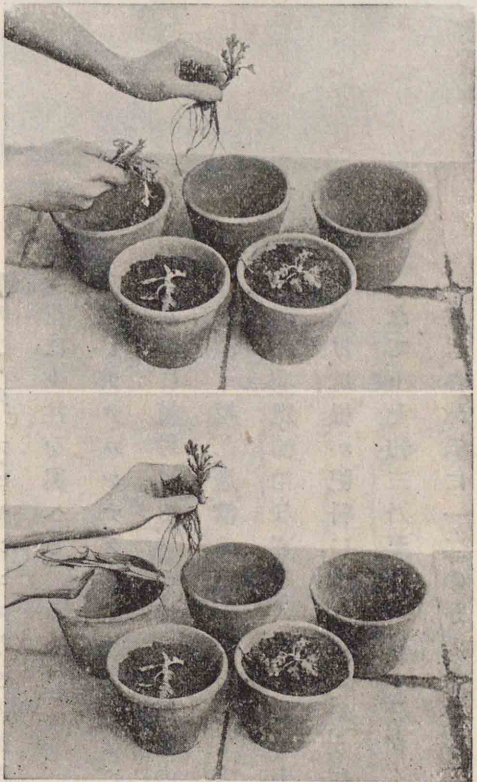
⊖ 大輪咲朝顔の

播種 本月末

か五月上旬に。

⊖ 庭樹の移植

新芽の出るまでに。



小菊の株分

春の草花の手入

朝顔

第二章 春の草花の手入

朝顔(あざがは) 朝顔には大輪咲と變り咲とがある。朝顔は東京附近では五月上旬頃播種する。その方法には床播と鉢播とがある。床播

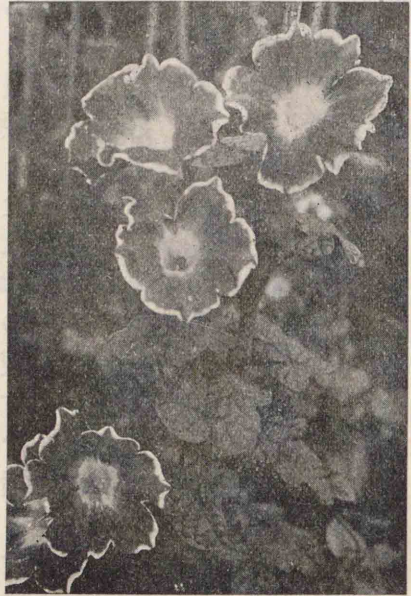
は、底のない木框(か)を地面に置き、その中に土を約六乃至九cmの厚さに入れてこれに播く。鉢播には、浅い大鉢に多數播くものと、小鉢に三粒づつ播くものがある。播種に用ひる土は排水がよく灌水し

ても固まらないものがよい。

また、直径約三mm(一分)の川砂

を用ひてもよい。

眼とは種子の隅にある稍窪んだ處をいふ。これを下に向けて播くがよい。

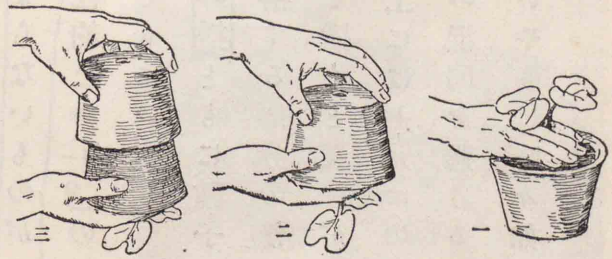


朝顔

に土を篩ひかけ、十分に灌水する。そして、種子の混同を避けるため、名稱を記入した札を立てる。その後、乾燥しないやうに時々如露で灌水すると、四五日で發芽し始める。

二一の油粕を二〇一の水に入れて蓋をしておく。これを使用する時にはその上澄(うはすみ)に四五倍の水を加へる。

朝顔の移植は根を傷つけないやうに丁寧に  
 する。例へば、小鉢の苗を大鉢に移植するには、  
 小鉢の側面を軽く叩き、鉢底の排水孔に當てて  
 ある貝殻または鉢の破片を指または木片で突  
 き上げると、苗は固まつたまゝの土と共に抜け  
 るから、そのまゝ大鉢に移し、鉢の八分目ぐらゐ  
 まで培養土を入れて少し押へつけるのである。  
 培養土は園土に堆肥または馬糞を混ぜ、これ  
 に下肥油粕などを加へて堆積腐熟させたもの  
 で、排水がよく、養分のあるものがよい。  
 朝顔の鉢は日光のよく照らす所に並べ、毎日灌水し、十日おきぐら  
 ゐに油粕の腐熟したものを薄くして與へる。  
 朝顔の蕾の着く前には、施肥及び灌水の量を少くする。そして、花



方き抜の鉢。す示を序順は(三)(二)(一)



柱支形燈行

摘心し、行燈形の支柱を立てる。

春播草花の多くは、春三四月頃、鉢箱苗床などに播種し、本葉が一二葉出た頃、一度他の苗床に移植し、本葉が四五葉になつた時に定植する。

春播草花

主なる春播草花

種	類	播種期	開花期	花色	草丈
天人菊		三四月	晩春から晩秋まで	黄赤	六〇cm内外
孔雀草		三四月	晩春から晩秋まで	外面黄色、 内面暗紅色	三〇―六〇cm
百日草		四月	晩春から晩秋まで	紅黄、白紫	六〇―九〇cm

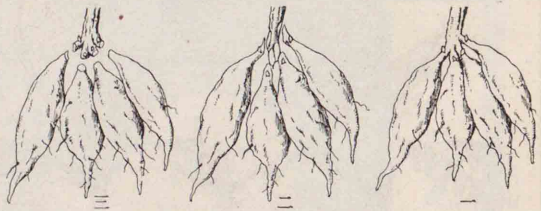
ダリア

コ ス モ ス	三四月	夏咲は夏、秋咲は秋	赤・白桃	二―二・四 m
ベニバナサルギア	三四月	夏から秋まで	紅	六〇―九〇 cm
ト レ ニ ア	三四月	初夏から晩秋まで	黄紫色	二〇 cm 内外
鳳 仙 花	四月	初夏から秋まで	赤・白紫	三〇 cm 内外
葉 雞 頭	三四月	秋季葉を賞する	―	六〇―九〇 cm
雞 頭	三四月	夏から秋まで	赤・黄・白	二〇 cm 一 m
向 日 葵	四月	夏から秋まで	黄・白	二 m 内外
松 葉 牡 丹	四月	夏から秋まで	紅・紫・黄・白・絞	一・五 cm 内外

ダリア *Dahlia* は晩春から夏にかけて美しい花を開く。これを栽培するには、普通根分の法による。根分をする際には根冠にある芽を傷つけないやうに注意する。先づ塊根が多数聯結してあるまゝ、三四月頃苗床に假植し、根冠の芽が少しく發育した後、(一)芽をそれ〴〵塊根に附けて分割する。(二)挿木

莖の心の空虚なものによくない。  
切口は滑かにするのがよい。

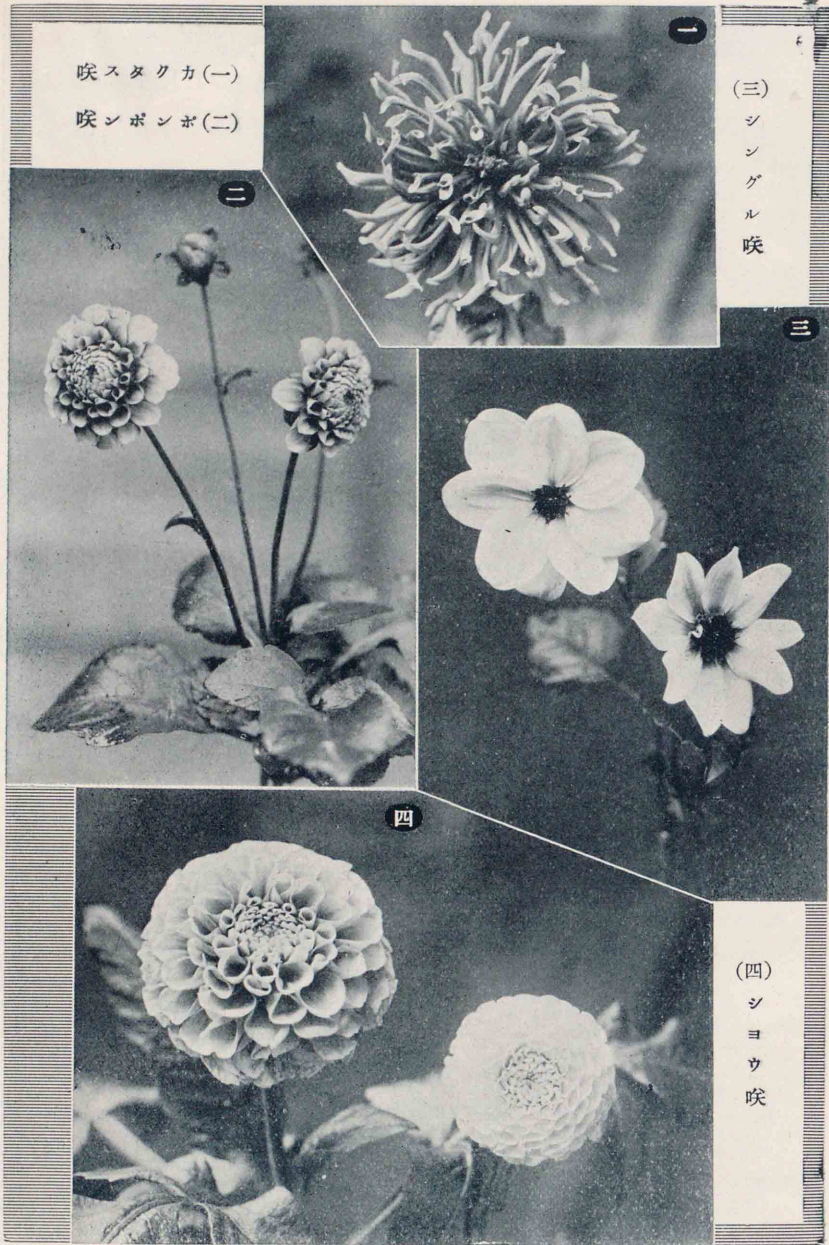
ダリアはまた挿木で繁殖させることも出来る。即ち五六月頃節間が短く、莖心の充實したものを、三節ぐらゐに節のすぐ下から切つて、床挿または箱挿とする。挿木用の土は肥料分がなく、排水のよいものが多い。挿木した後は日除をし、時々水を與へる。ダリアの植付には地植と鉢植とがある。地植にするとは發育がよく、大輪の花が咲く。地植にするには、四五月頃、日當りも排水も共によい場所に植溝を作り、または植穴を掘つて、塊根を植付けるのが普通である。株間は通常一 m 内外にし、植穴の大きさは直径約三〇 cm、深さ約三〇 cm でよい。先づ腐熟した厩肥に油粕灰などを混ぜて施し、その上に土を覆うて塊根を置き、更にその上に約一〇 cm の土を



分根のフリーダー

(一) 莖の下部に多数の根を生じてもたじ  
(二) 適當に分根したもたじ  
(三) 分根の悪いもたじ

(一の其) 類種のアリーダ



咲スタクカ(一)  
咲ンボンボ(二)

(三) シンゲル咲

(四) ショウ咲

八月頃刈込んだ  
ダリアには稍  
濃厚な液肥を施  
す。

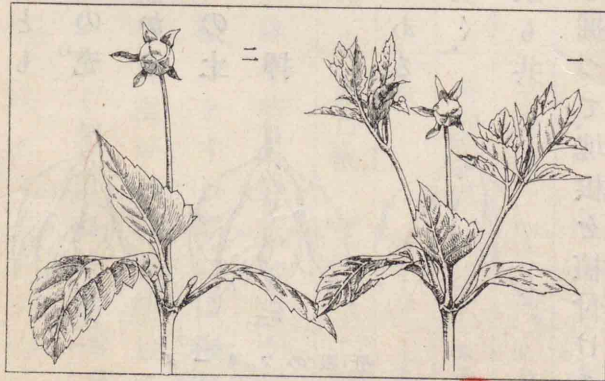
第二章 春の草花の手入

覆ふ。また鉢植にするには、直径二〇乃至三〇cm以上の大鉢を用ひ、これに肥沃で排水のよい土を入れ、日當りのよい處に置いて、施肥灌水などに注意する。かうすると、やがて美しくて大きい花が咲く。

ダリアは丈が高く伸びて倒れ易いから、その傍に竹などを立てて、莖を結び付けるがよい。普通には植付前に竹を立て、その傍に塊根を植ゑる。

ダリアには植付の時に基肥を施す外、補肥として薄い下肥と少量の過磷酸石灰または油粕の液肥とを施す。

ダリアの中で草丈の高過ぎるものは、早く摘心して數枝を發生させる。その蕾は多くは三又をなして發生す。

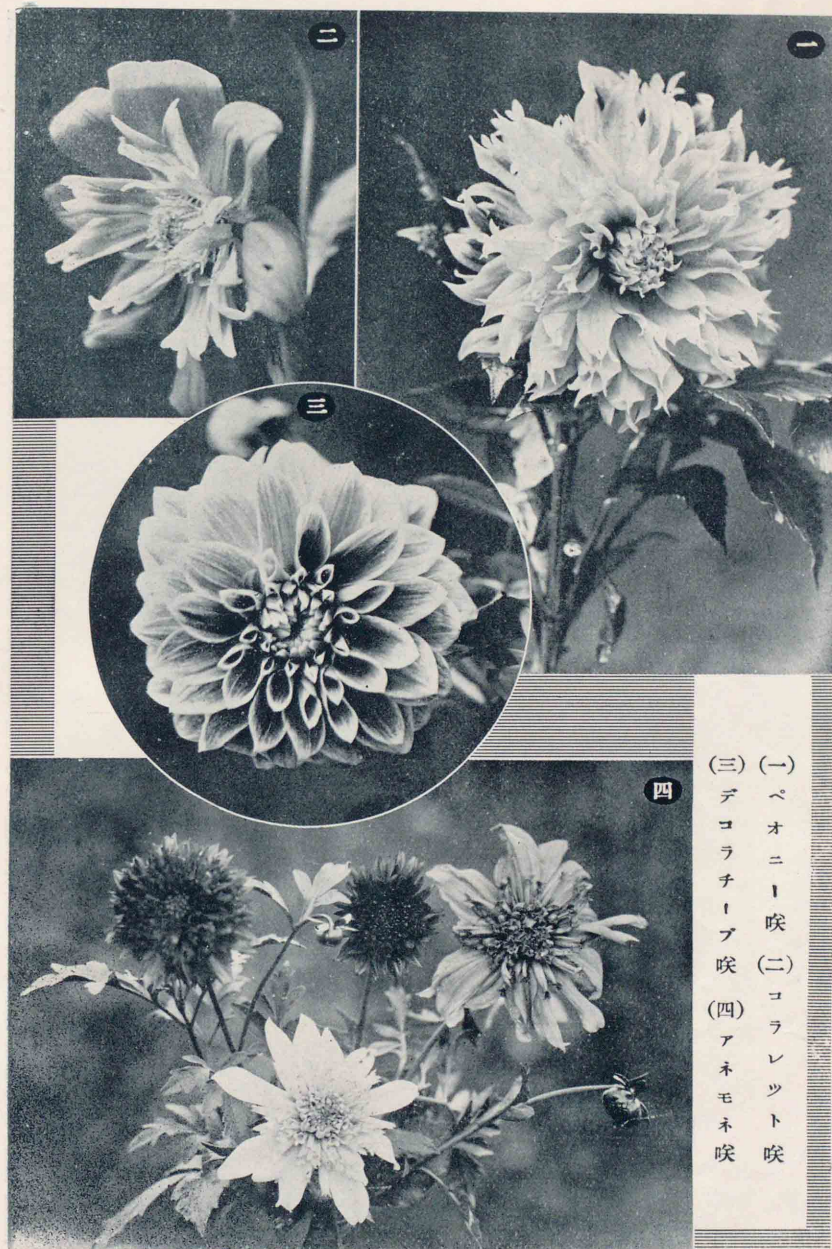


方引間の蕾のアリーダ

蕾たし生發てしなを又三 (一)  
のたし除摘を本二の他てし殘を蕾の央中 (二)



(二の其) 類種のアリーダ



(一) ペオニー咲  
(二) コラレット咲  
(三) デコラチーフ咲  
(四) アネモネ咲

春植球根草花

るから、中央のものを残し、両側のものを早く摘除すると、大きい花が咲く。花期が過ぎたなら、土際から莖を切つて其の塊根を掘り上げ、名札を附けて二三日間乾した後乾燥した土中に貯蔵する。貯蔵中は塊根を凍らせないやうに注意する。

春植球根草花

春植球根草花には、次のやうなものがある。

主なる春植球根草花

種 類	植 付	開 花 期	花 色	草 丈
ダーリア	三・四月頃苗床に	晩春から秋まで	白・赤・黄・紫・絞	一五〇cm内外
カンナ	四月頃花壇に	初夏から秋まで	紅・黄	二〇〇cm内外
グラデオラス	春植球根植付	初夏	白・紅・黄・紫	六〇―九〇cm
グロキシニア	春植球根植付	初夏	紅・白・紫・絞	一五cm内外
オキザリス	春	晩春から初秋まで	白・赤	一〇―三〇cm
睡蓮	春根基を切つて植ゑる	夏	白・黄・紅・藍	―

◎園藝作業 五月

一、朝顔の手入

(イ) 播種 本月上旬が最もよい。

(ロ) 移植 直播することもあるが、鉢播にしたら次第に大形の鉢に移植する。

(ハ) 灌水と施肥 移植した後は灌水に注意し、また發育の悪いものには稀薄な液肥を施す。

一、ダリアの手入 ダリアは本月に入つてからでも球根を植付けてよい。

摘心摘芽などをなし時々施肥する。

一、菊の挿芽 本月初旬から六月にかけて行ふ。

一、水仙・ヒヤシンスの施肥 花期の終つた水仙・ヒヤシンスなどに、人糞尿を施して球根を養ふ。

一、春咲草花の採種

一、芝生の施肥

一、生垣の刈込

花壇の手入

第三章 花壇の手入

芝生の手入

切芝は普通〇〇三三a(坪)を四十枚(一枚は縦三〇cm横一五四の長方形に切つてある。

鎮壓は、根や種子が水分・温熱を取つて發育し易くするため及び根や種子の移動を防ぐために行ふ。

芝生の手入

芝生は青天井を戴いてゐる自然の毛氈である。芝を繁殖させるには、春または秋切芝を植付けるのが普通である。あけれども、種子または刻芝を播くこともある。

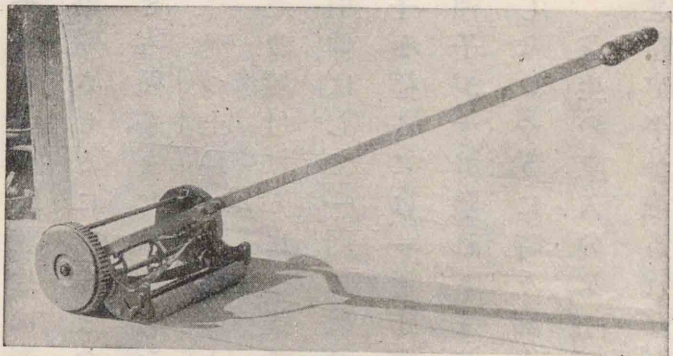
先づ土地を排水のよいやうに少しく勾配をつけてよく均す。切芝を植付けるには、適當の距離をおいて條目正しく並べ、または薄く引伸ばして一面に伏せ、淺く土を覆ひ、板で敲いて鎮壓する。また種子を播くには、一層丁寧地面を均し、厚薄のないやうに平均に播き、種子が十分隠れるまで土を覆つて鎮壓する。何れの場合でも、乾燥しないやうに時々灌水することが大切である。

芝生の手入の第一は刈込である。刈込は年二回乃至五回行ふ。芝面が平かであればローンモアを用ひると最も手軽に行ふこと

が出来る。また傾斜してゐれば芝刈鋏を用ひる。野芝のやうなものは鎌で刈ることも出来る。

芝生の手入の第二は除草である。元來芝を張付ける前には十分雑草の根を抜き取らなければならぬが、それでも芝生となつた後、飛散して来る種子によつて芝の中に雑草が生える。此等はあまり繁殖しない内に除くことが必要である。

芝生の手入の第三は施肥・灌水である。芝生はその美觀を保つには必ず施肥しなければならぬ。少くとも年一回、早春に施すべきである。榮養が減退すると、葉の色が多少褐色を帯びて光澤を失ふ。肥料は、普通、早春



ア - モ - ン - ロ

花壇

に、油粕粉か魚肥粉を土に混ぜて施し、夏はチリ硝石または硫酸アンモニア三七〇を水三〇の一の割合に溶かしたものを如露で多量に施す。灌水は植付の時と夏の早魃の時にすれば十分である。

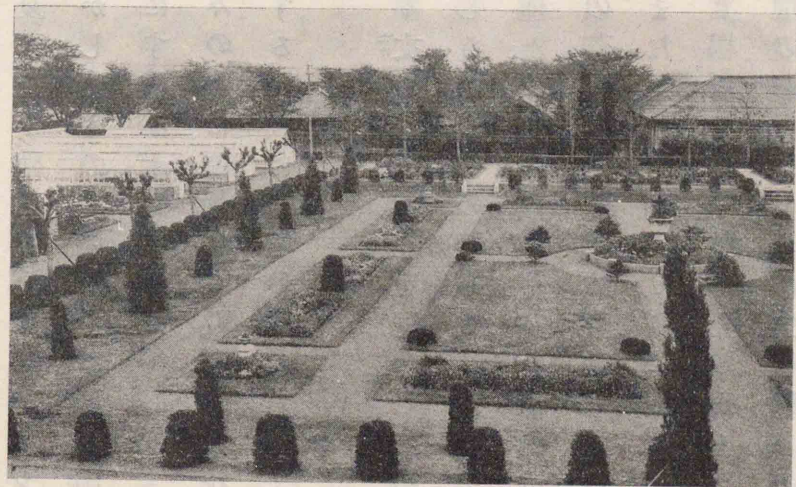
**花壇** 校庭の空地を利用し、これを種々の形に區劃して、數種の草花類を取混ぜて植ゑると、頗る美觀を呈する。次に花壇の作り方を二三種述べる。

**毛氈花壇** これは種々の色彩のある丈の低い草花を配合して植付け、花毛氈を敷いたやうな美觀を呈しさせるものである。芝生を利用して作る毛氈花壇は、芝生の中に種々の丈の低い草花を植付けて模様を顯す。先づ模様を顯す部分の芝生を除き、よく整地して培養土を覆ひ、これに草花を植付ける。また芝生を利用せず、全部草花で模様を顯すものは、先づ花壇にすべき場所をよく整地し、培養土を地上約一・五mの高さに盛り上げて花壇の形を作り、その上に種々の

色彩のある丈の低い草花を配合して植付ける。

**境栽花壇** これは垣根・建物・道路などに沿うてある場所に設けるものである。この花壇に植付ける草花の色は、背景の色によつて定める。例へば黒塀の前には白色のものを用ひるやうにする。この花壇では、後の方に丈の高い草花を配し、前の方に進むに従つて次第に丈の低いものを植付けると綺麗に見える。花壇の後方には花木などを植ゑることもある。

**リボン花壇** これは庭園内の道路



(シデーガクンサ式スラフ) 壇花の校學藝園等高葉千

花壇の縁植

池邊などに沿うて細長く設けるものである。直線的のものや、曲折した波状のものなどがある。なるべく丈の低い草花を用ひ、色彩の調和に注意して美観を發揮させる。

花壇の縁植

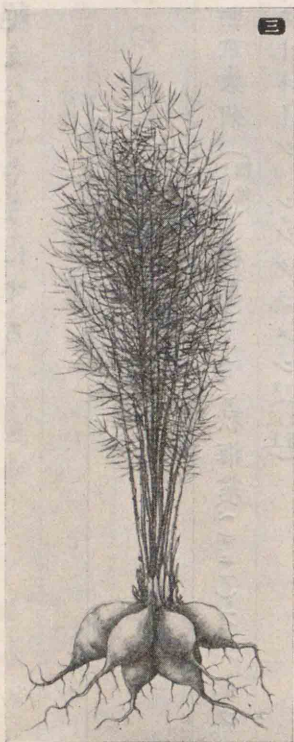
壇の縁植には、白丁花、姫楊、龍鬚、特生、天門冬など種の植物を用ひる。



花壇の管理

花壇には、開花期を異にする種々の草花を巧みに配

花壇の管理



花丁白 (一)  
楊姫 (二)  
冬門天生特 (三)

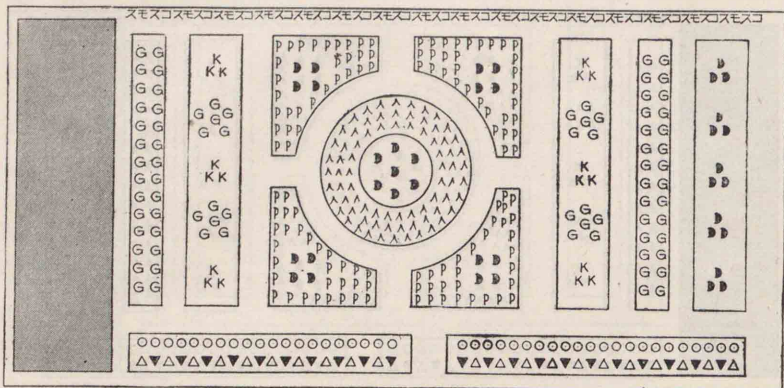
花卉の開花時期

置して、常に花の絶えないやうにする。

花卉の開花時期

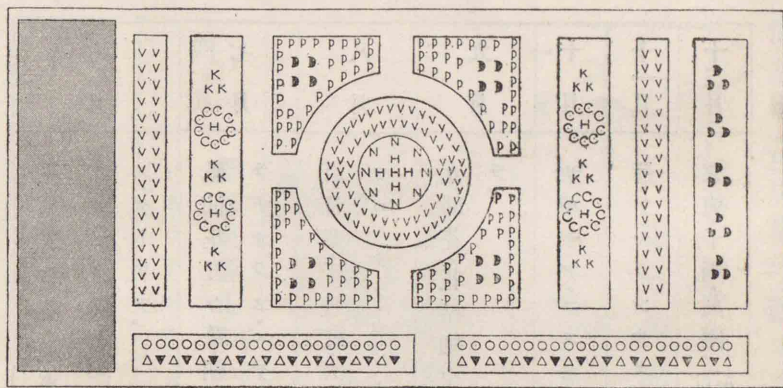
一月	二月	三月	四月	五月
福壽草・雪割草・寒菊。(以上露地) 櫻草(フリムラ)・秋海棠(ベゴニア)・フリージア・スキートビー・カーネーション・シクラメン。(以上温室)	水仙・福壽草・雪割草。(以上露地) 温室物は一月に同じい。	金盞花・雛菊・三色堇・堇・喇叭水仙・櫻草・クロカス・アネモネ・ヒヤシンス(以上露地) 百合・ベゴニア・シネリア・シクラメン。(以上温室)	櫻草・金盞花・勿忘草・アルメリア・フロックス・チューリップ・オキザリス・シレネ・ラナンキュラス。	矢車草・勿忘草・つくばねあさがほ・シレネ・ルピナス・フロックス・アラセイトー。

六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
花菖蒲・芍薬・矢車草・花菱草・千日紅・天人菊・朝顔・美女撫子・立葵・ベチュニア・アロベリア・アスタ(蝦夷菊)・ナスターチューム(金蓮花)・アマリリス・ルピナス・ダーリア。	鳳仙花・日々草・朝顔・金魚草・松葉牡丹・紫陽花・花石榴・木芙蓉・トレニア・グラデオラス・ニゲラ・アリサム・カンナ・グロキシニア。	百日草・千日紅・天人菊・夏菊・天竺葵・蓮睡蓮・サルギア・アマランサス(雁来紅)・フロックス・カンナ・ダーリア。	女郎花・花桔梗・夕顔・サルギア・コスモス・ダーリア・アマランサス・ガーベラ。	サルギア・コスモス・ダーリア・アマランサス。	菊・アマランサス。	寒菊・千両・萬両。(以上露地) フリージア・カーネーション・スキートビー。(以上温室)



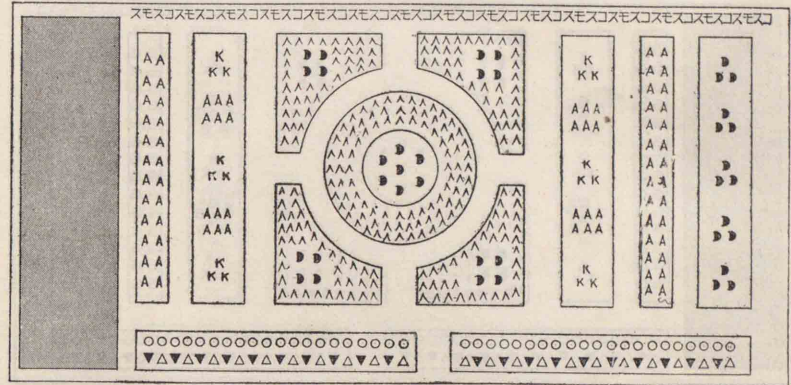
- 夏の花壇
- モ 桃
  - ス 赤
  - コ 白
  - ス コスモス
  - ▲ 葉雞頭
  - ▼ 紫露草
  - △ あやめ(溪蓀)
  - 菊
  - △ カンナ
  - パンジー
  - グラデオラス
  - △ ダーリア
  - △ グラデオラス

月 八	月 七	月 六	月
芝生の手入 ダーリアの切込 園内の除草 翠菊の植付 コスモスに支柱を與へる。摘心	園内の除草・中耕、芝生の刈込 葉雞頭・コスモスなどの定植 菊の摘心	菊・ダーリア・カンナの施肥 菊・ダーリアの挿芽 芝生の刈込 秋植球根跡地の整地	管 理 作 業          苗 床 そ の 他
			パンジーの挿芽 秋播草花の註文



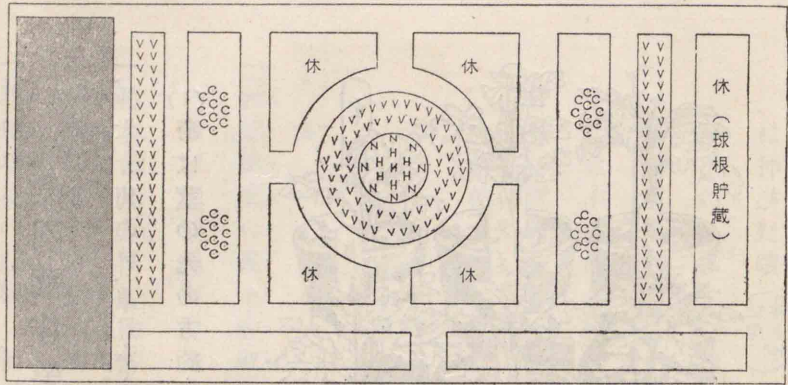
- 春の花壇
- ▲ 紫露草
  - △ あやめ(溪蓀)
  - 菊
  - △ カンナ
  - ナルシッサス
  - ヒヤシンス
  - パンジー
  - グロークラス
  - チューリップ
  - ダーリア

月 五	月 四	月 三	月
ダーリアに支柱を與へる グラデオラス植付(秋にかけての開花を望むので稍遅く) チューリップ・ヒヤシンス・グロークラス・ナルシッサスなどの掘上・貯蔵	ダーリアの支柱を與へる グラデオラス植付(秋にかけての開花を望むので稍遅く) チューリップ・ヒヤシンス・グロークラス・ナルシッサスなどの掘上・貯蔵	ダーリア・カンナなどの植付地整地 グラデオラスなどの球根購入 カンナ球根の掘上 (貯蔵してあるもの) ダーリア球根の株分	管 理 作 業          苗 床 そ の 他
			葉雞頭・コスモス その他春播草花の 播種、秋播草花の 補肥
			春播草花の間引・ 移植補肥など
			春播草花の移植・ 間引など



- 秋の花壇
- ▲ ダリア
  - ▲ アスター
  - ▲ カンナ
  - ▲ 雁来紅
  - 菊
  - △ あやめ(溪蓀)
  - ▼ 紫露草
  - 白コスモス
  - 赤コスモス
  - 桃

月 九	月 十	月 十	月 一
管理作業	園内の除草・中耕、芝生の切透	グラデオラス・カンナなどの掘上	葉雞頭・コスモス・アスターの撤去 園内の冬耕 霜除(菊) ダリアの掘上・貯蔵
苗床その他	秋播草花の播種 秋植球根の註文	秋植球根類の植込 葉雞頭・コスモス・アスターの採種	秋播草花の間引・移植 秋播草花の霜除



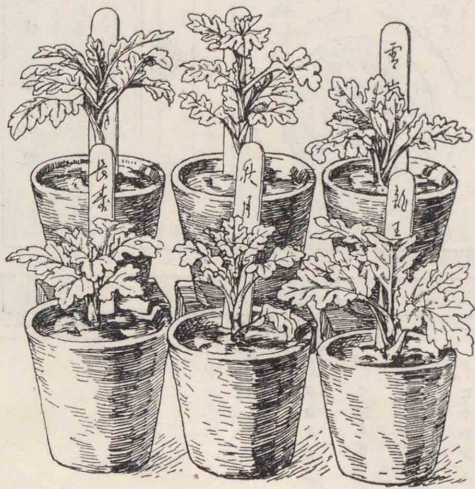
- 冬の花壇
- 休 休閑
  - C クローカス
  - V チューリップ
  - N ナルシサツス
  - H ヒヤシンス

月 二	月 一	月 二	月
管理作業	菊の莖刈及び株の保護 休閑に入る	宿根性草花の施肥	冬耕 施肥(基肥となるもの)
苗床その他		秋播草花の補肥 春播種子の註文	

二期期不識類コソモス

◎園藝作業 六月

一、挿木 菊の外、皐月椿、沈丁花、山茶花、ダリアなどの挿木をする。



大菊挿木の鉢植

(イ) 菊は莖の先の方約六乃至九cmを節の下から切り取つて、箱挿または床挿にする。挿木の土は肥料分がなく、排水のよいものがよい。鹿沼土などがよく用ひられる。箱挿をするには、排水をよくするために箱の底に孔を設ける。挿木が終つたら如露で灌水し、一週間乃至十日間ぐらゐる葭簀の下に置き、次第に日光に當てるやうにすると、約三週間で根を出す。

(ロ) 皐月は本年の春出た新梢が約六cm

に伸びた頃(本月中旬頃)親木から取つて、鹿沼土に水苔を混ぜたものを入れた浅い箱に挿す。初の數日間は日光の當らない處に置き、屢々如露で葉の上に灌水すると、約三週間で根を出す。

(ハ) 椿は本月中旬頃新梢の下に昨年出来た古枝を約三cmつけて切り取り、古枝の部分を赤土で固く練つた團子状のものの中に挿して、日除をした畑に挿植する。さうすると夏の間に根を出すから、晩秋掘り上げて鉢植とすることが出来る。

(ニ) ダリアは莖の心の充實したものを三節ばかりに切つて挿し、日除をする。

一、秋植球根の掘上貯藏 秋植の水仙、クロカス、チーリ、アピヤシンス、フリージアなどは、球根を掘上げ、風通しのよい處に並べ、蔭干にした後、秋の植付期まで、風通しのよい冷涼な暗い處に、袋に入れて貯藏する。

一、春播草花の移植 葉雞頭、松葉牡丹、百日草、サルギアなどを移植する。

一、秋播草花の採種 秋播草花で花の凋んだものは、種子を採取し、これを乾燥



して貯蔵する。  
 一、朝顔の手入 大鉢に移植した大輪咲朝顔は、本葉四枚を残して摘心し、三箇の腋芽を發生させる。摘心後は液肥を施して發育を促す。  
 一、菊の手入

(イ) 挿木した菊苗の鉢植 挿木した大輪菊の發根したもの(三本)は、先月末から本月にかけて、直徑約一五cmの鉢に培養土を入れて移植する。培養土は腐葉土に木炭末、鹿沼土などを混ぜたものがよい。また一本仕立の大輪菊は、本月下旬から七月にかけて直徑約一五cmの鉢に移植する。

(ロ) 菊の摘心 三本仕立とする大輪菊は、約一四cmに伸びた頃、芽先を僅かに摘んで三枝を發生させる。その後、三枝の勢力を均等にするため、強い枝は針金の鈎かぎで下方に誘引する。

(ハ) 菊の害虫驅除 菊の葉をエキスルオール1の二十倍液などで洗ふ。蚜蟲あぶらむし、スリップスリップなどの驅除に有効である。

エキスルオールは、ニコチンを主薬とし、石鹼やレモンなどを加へて作った液體で、英國から横濱植木會社が一手に輸入してゐる。この薬は使用するに當つて任意に薄めて使へるし原液は貯蔵されるので、重寶なばかりでなく、大變効果がある上に、植物には殆ど無害であるから、高級なもの(蘭、おもと、大菊など)に用ひる。

秋の蔬菜の栽培法

秋の蔬菜

第四章 秋の蔬菜の栽培法

秋の蔬菜は冷涼で濕氣の多い氣候を好むから、秋冷が次第に加はる頃から著しく成長し、品質もよくなる。

秋の蔬菜の主なもの、は大根、蕪菁、甘藷、里芋などの根菜類、菘類、葱などの葉菜類である。併し、此等の中には必ずしも秋の蔬菜であるばかりでなく、四季を通じてこれを栽培して收穫することの出来るものもある。

**大根** (菜菔) 大根は貴重な蔬菜で、煮物、漬物、オロシなどとなし、なほ干

大根、切干きりかなどにもする。

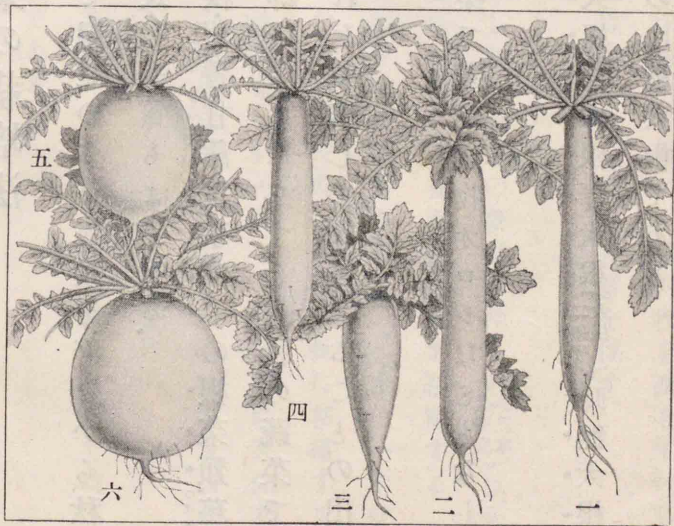
大根は收穫期によつて、秋大根、夏大根、春大根(二年子)、時無大根の四種に大別されるが、その主なものは秋大根である。

秋大根には、早生わせに美濃、早生なび、中生なびに宮重、晩生おに練馬、聖護院、方領な

大根

ごがある。また櫻島大根は最も巨大なため、守口大根は最も細長なために、よく知られてゐる。

大根は我が國の到る處に栽培されるが、溫和で濕潤な氣候に適し、表土の深い砂質の壤土または火山灰土を好む。圃地はなるべく深く耕し、土塊を細かく碎き、約六〇乃至六六cmの距離に作條を設け、約四五乃至六〇cmの間に肥料を施し、その側に十粒ぐらゐづつ播種し、薄く土を覆うて鎮壓する。播種期は大抵八九月頃である。發芽後は次第に



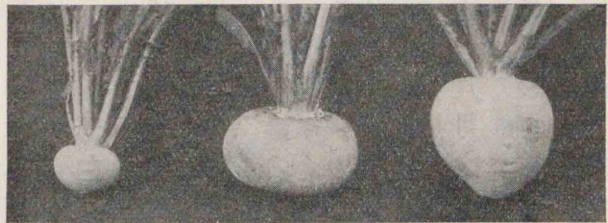
種品の根大秋

- 馬練生晩 (一)
- 重宮 (四)
- 馬練生早 (二)
- 院護聖 (五)
- 領方 (三)
- 島櫻 (六)

發芽後は次第に

蕪菁

菘類



種品の蕪菁

- 蕪菁小 (左)
- 寺王天 (中)
- 院護聖 (右)

間引を行ひ、遂に一所に一本とし、その後は適宜に中耕、除草、補肥、土寄などの手入を行ひ、害蟲が發生したら、砒酸鉛、除蟲菊液などを撒布して驅除に努める。收穫の適期は晩秋から初冬にかけてである。

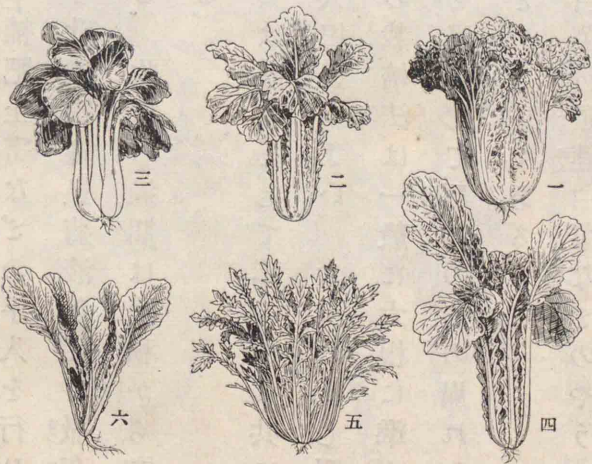
**蕪菁** 蕪菁は蔬菜として葉も根も共に用ひられ、風味は大根よりよい。大根に比し耐寒性が強い。その栽培法は一般に大根に準ずればよいが、整地を淺くして、蕪菁の形の崩れないやうにすることが大切である。

**菘類** 菘類には、山東白菜、芝罘白菜、包頭連白菜などのやうに結球するもの外、唐菜、京菜、體菜、山東菜、大芥菜、小松菜などのやうに結球しないものも少くない。結球しない菘類の栽培は比較的容易で、唐菜

京菜のやうに移植に堪へるものもある。

結球白菜は近年著しく盛に栽培されるやうになつた。その栽培には多量の肥料を施し、周到な手入れをなすことが必要である。元來、結球白菜は甘藍のやうにみづから結球しようとする本性を有する。播種期が早過ぎると病蟲の被害が多く、遅過ぎると寒さのために球が緊らない。その適期は、東京地方では通常八月中旬頃であるが、地方によつて多少遅速がある。

菘類を栽培するには、整地を丁寧にし、作間約六六乃至七二cm、株間

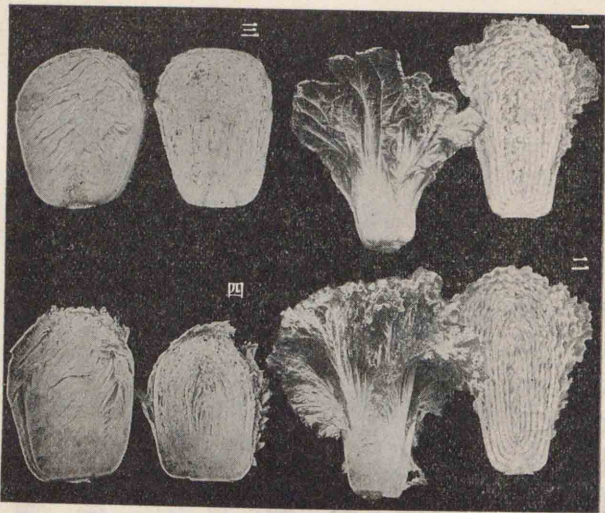


菘類の品種

- 菜白 (一)
- 菜東山 (二)
- 菜體 (三)
- 菜京 (五)
- 菜島河三 (四)
- 菜松小 (六)

約六〇乃至六六cmに摘播する。

肥料は基肥及び補肥として十分に



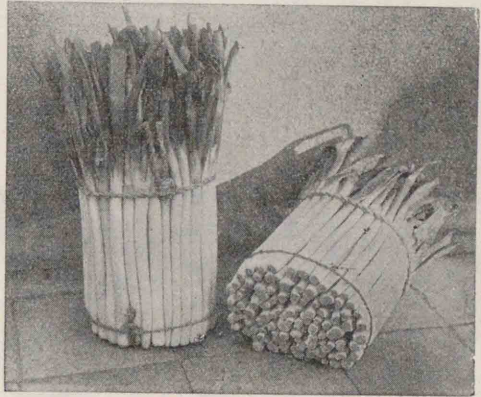
結球白菜

- 東山 (一)
- 練直 (二)
- 連頭包 (三)
- 菜芝 (四)

且つなるべく早目に施す。大根・菘類は同一種子と肥料とを用ひても、間引の巧拙によつて其の品質に非常な優劣が生ずるから、よくその品種の特性を辨へ、數回に亙つて極めて丁寧な間引を行ひ、良いものを残すことが必要である。また中耕・除草・病蟲害防除などを怠つてはならぬ。殊に結球期に於ける夜盜蟲などの害蟲は最も恐ろしいから、油斷なく驅除しなければならぬ。

葱

葱は煮食の外、香料として生食され、その收穫期は秋の終から冬にかけてである。關西地方では、多くは九條葱のやうに綠色部が



葱住千

需要されるが、關東地方では、多くは千住葱のやうな根深葱が必要される。

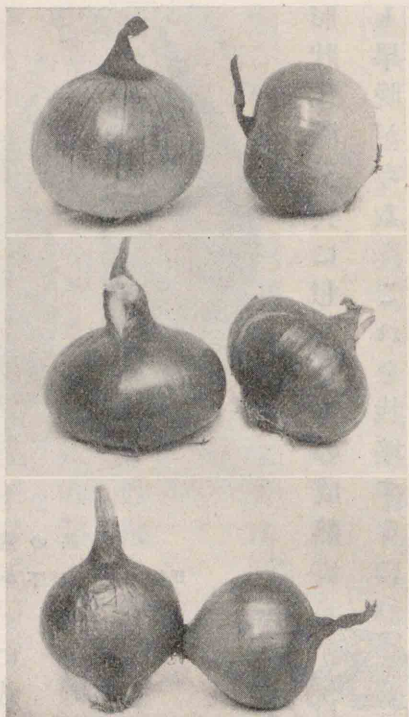
葱の苗は春または秋、苗床に播種して育成し、七八月頃本圃に定植する。根深葱を作るには、特に苗が強剛で、なるべく成長したものをを用ひるがよい。

本圃は深耕して深さ約三〇cmの溝を作り、堆肥その他の基肥を施して土を覆ひ、溝の一侧に寄せて一、二本づつ約一、二cmを隔てて植ゑ、鬚根の隠れるほごに土を覆ふ。苗が根付けば補肥として屢人糞尿を與へ、また次第に土寄を行つて軟白させる。土寄は一時に多く土を寄せると

玉葱

葱の肥大を害するから、少しづつ數回に行ふがよい。

玉葱は洋種蔬菜の重要なもので、我が國に於ても近年盛に栽培される。冷涼で乾燥しない肥沃な土質を好む。これを栽培する

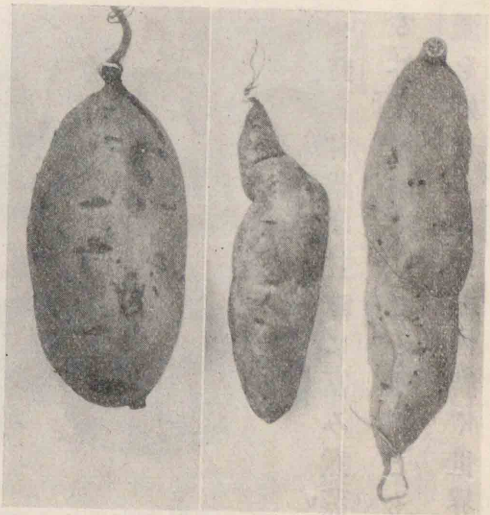


種品の葱玉  
ルガユチルボ、トイワホ(上)  
スーバンダ、ーロエ(中)  
スーバンダ、ブーログ、ーロエ(下)

には、地表をよく軟げ、施肥、除草を十分にし、屢中耕を行つて鱗莖を地上に露出させるやうにし、土を覆つてはならぬ。

甘藷

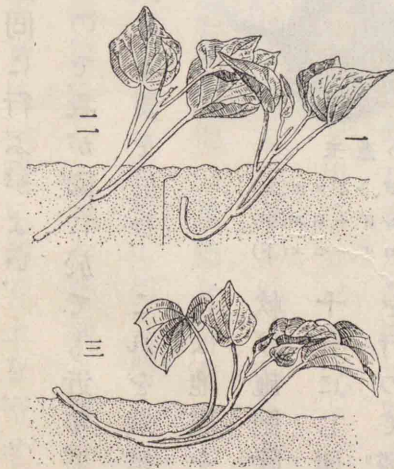
甘藷は甘味に富み、煮、蒸し、焼きなどして、常食または間食とする外、澱粉、酒精などの原料ともする。元來熱帯の原産であるので高温を好む。今日では廣く世界に栽培され、我が國には凡そ百餘年前



甘藷の品種  
氏源(左) 白總下(中) 越川(右)

に支那・琉球を経て傳はり、年々その栽培が盛になり、現に樺太・北海道・東北地方の外殆ど全国に栽培され、重要な食糧品の一となつてゐる。

甘藷は品種によつて塊根の



蔓藷の植挿法  
植針鈎(一) 植通普(二) 植底缸(三)

形状・色澤を異にし、またその成熟にも早晚がある。これを栽培するには、三四月頃から苗床に苗を仕立て、約二〇乃至三〇cmに伸びた頃切り取り、麥などの條間に堆肥・油粕糠な

ごを施し、株間約三〇cmを隔てて、淺く斜に一本づつ植ゑる。そして、蔓が次第に成長すれば中耕・除草をなし、また蔓返しを行つて藷の發育を促進する。

里芋

**里芋** 里芋は濕氣の多い土壤を好むから、乾燥地では稍深植にするがよい。肥料は堆肥などの有機物を基肥として施し、補肥もなるべくこれを施す。中耕及び土寄は肝腎な手入で、朝露の落ちた日中行ふがよい。

蔬菜の貯藏

蔬菜の貯藏

蔬菜は一般に貯藏や運搬に困難である。秋の蔬菜の中にも、葱などのやうに比較的遅くまで圃地に置くことの出来るものもあるが、大根・白菜・甘藷・里芋などのやうに凍害に對して弱いものもあるから、此等は、その貯藏によほご注意しなければならぬ。大根などは乾燥地を選んで穴を掘り、根を並べ、葉を出して埋めるぐらゐでよいが、甘藷は約九〇cmの穴を掘り、藷を約三〇cm入れ、その上を藁

菘こもなどで覆ひ、更に土を盛つて中央を高くし、排水をよくし、冷水の浸入を防ぐ。白菜は納屋なやなどに入れ、菘こも蓆むしろなどで覆つてもよいが、また土中に穴を掘つて一列に並べ、その上を藁わら蓆などで覆つて凍害を防ぐ。この場合には時々覆を取つて、日光に當つて腐敗を防ぐことを忘れてはならぬ。

秋の蔬菜栽培 (東京地方の例)

種類	品種	播種期	播種量 (10aにつき)	作間×株間	肥料		補肥及中耕 その他	收穫	
					基肥	補肥			
蕪菁	聖護院 近江 小蕪菁	九月上旬	〇・四	六〇×七五 四五cm	堆肥 九元kg 過磷酸 八元kg 灰 九元kg	下肥 七五〇kg	二回	同	十一月
大根	練馬	八月二十日頃	〇・六一 〇・八一	三〇cm×四五cm	堆肥 七元kg 下肥 七五〇kg 米糠 三六kg 大豆粕 三六kg	過磷酸 一五kg 下肥 七五〇kg	二回	土寄 害虫驅除	十一月

種類	品種	播種期	播種量 (10aにつき)	作間×株間	肥料		補肥及中耕 その他	收穫	
					基肥	補肥			
牛蒡	瀧野川	三、四月	〇・八一 二	七五cm×三〇cm	堆肥 七元kg 米糠 三六kg 大豆粕 三六kg	下肥 一五〇〇kg	二回	土寄 害虫驅除	十二月—三月
胡蘿蔔	金時 三寸	六、七月 隨時	四—六一	三〇—四五cm 六〇cm 二條播	堆肥 七元kg 下肥 七五〇kg 米糠 三六kg 大豆粕 三六kg	下肥 一五〇〇kg	二回	同	十二月
甘藷	金時	三月 藪伏せ	—	五月上旬定植 六〇cm×三〇cm	堆肥 七元kg 過磷酸 一三kg 灰 七五kg	米糠 二kg 過磷酸 二kg	二回	土寄 蔓返し	十一月から
里芋	赤芽 九面芽	四月中旬	一八八kg	七五cm×四〇cm	堆肥 七元kg 大豆粕 一三kg 過磷酸 七五kg	堆肥 五元kg 米糠 三六kg	二、三回	土寄	十二月
薯蕷	長薯 大和薯	三、四月	—	六六cm×三六cm	堆肥 七元kg 下肥 七五〇kg 米糠 三六kg 大豆粕 三六kg	下肥 二、三、五kg	二回	—	十一月
結球白菜	芝罘 包頭連	八月中旬	〇・四三— 一	七二cm×六六cm	堆肥 七元kg 下肥 七五〇kg 米糠 三六kg 大豆粕 三六kg	下肥 三、四、六kg 過磷酸 三〇kg	三回	害虫驅除	十一月

百合	玉葱	葱
鬼百合	エロイ ダンバ イス	千住葱
十一月	九月中旬 三月下旬	三月
	床 一	三
六〇cm×一五cm 六、七cm覆土	四五cm×一四cm (三〇cmの深)	七五cm×六cm
堆肥 木灰 油粕	堆肥 木灰	堆肥 米糠 藁灰
七五〇kg 五kg 五kg	七五〇kg 三〇kg 三〇kg	七五〇kg 三〇kg 三〇kg
硫酸 安	大豆粕 下肥 過磷酸	下肥 米糠 藁灰
二kg	七五〇kg 二六kg	三〇kg 三〇kg 七五kg
二回	二・三回	二回
	同(浅く)	土寄
九月—十一月	秋播翌五月 下旬から六 月下旬	十二月— 十一月

春菊	菠薐草	唐菜	大芥菜	小松菜	京菜	體菜
外國種	在來種				早生 晚生	白莖 青莖
九月	九月中旬	八月中 下旬	九月下旬	十月	九月下旬 —十月	九月上旬 —十月中
五	一〇— 一二	〇・六	〇・四	〇・九	〇・八	〇・八
九〇cm幅の畦を 作り施肥し薄播 にする	四五cm—六〇cm 條播	四五cm×四五cm	三〇cm×條播 七五cm×五三cm に定植	二四cm×條播	六〇cm×條播 (三〇cm)	六〇cm×條播 (三六cm)
堆肥 大豆粕 下肥	下肥 過磷酸 藁灰	堆肥 大豆粕 米糠	下肥	下肥	堆肥 下肥 過磷酸	堆肥 下肥 大豆粕 藁灰
七五〇kg 三六kg 一七kg	三〇kg 一九kg 七五kg	三〇kg 二六kg 三〇kg 四五kg	三〇kg	七五〇kg	七五〇kg 五三kg 一九kg	二、三kg 三三kg 七五kg 五kg
下肥	下肥	下肥	下肥		木灰 下肥	下肥
七五kg	三〇kg	二、三五kg	二、三五kg		三三kg 九〇kg	二、三五kg
二回	二回	三回	三回		二・三回	二・三回
		同	移植		同	青蟲驅除
播種後 一—二箇月	十一月— 十二月	十二月	三—四月	十一月	十二月	十一月中旬

園藝作業  
七月

1) アキランタスは  
一二年生草本  
である。晩秋そ  
の葉を賞するも  
ので、黄、紫、赤  
などの葉色を呈  
する。七月頃株  
分によつて繁殖  
し、花壇に植ゑ  
るのに適する。

園藝作業 七月

◎園藝作業 七月

- 一、挿木 コスモス<sup>1)</sup>アキランタスなどの挿木をする。
- 一、朝顔の手入 朝顔は本月下旬から八月上旬にかけて美大な花を開くから、毎夕薄い液肥を與へる。開花したものは日蔭に移して觀賞した後、午前十時頃には花を摘み取り、直ちに日光に當て、多少葉の凋れた頃十分灌水する。
- 一、菊の手入
- (イ) 三本仕立の大菊を、直径約二七乃至三〇cmの大鉢に移植する。
- (ロ) 大鉢に移植する前に、エキスルオール<sup>1)</sup>の二十倍液または三斗式ボルドー液で病害を防除する。
- 一、ダリアの手入 本月下旬から八月上旬にかけて、地上約三〇乃至四五cmの高さに刈込み、油粕米糠魚肥などの液肥を施しておく、新梢が出て秋再び花が咲く。
- 一、春播草花苗の植付 なるべく梅雨中に花壇に植ゑてしまふ。
- 一、美濃早生大根の播種 本月から八月にかけて、條間約六〇cm、株間約三〇cm

園藝作業  
八月

1) ラフィアは椰子の葉の乾燥したもので、一般に草花・菊などの結立に用ひるが、輸入品であるから、この代りに國産の藁・藁などをを用ひるがよい。

園藝作業 八月

◎園藝作業 八月

- 一、春播葱の定植 本月から八月にかけて行ふ。
- に點播する。種子は基肥の傍に五六粒づつ播き、薄く土を覆うて鎮壓する。發芽後二回ばかり間引いて一株一本とし、施肥土寄を行ふと、九十月頃收穫される。
- 一、朝顔の手入 七月に引續き摘心灌水施肥などを行ふ。なほ本月中下旬には蔓を一本立て、これを長い篠竹<sup>しのだけ</sup>に絡<sup>から</sup>ませて結實させる。
- 一、大輪菊の手入
- (イ) 三本仕立のものは約九〇cm—一二mの篠竹を三本立て、これに三枝をそれぞれ結び付ける。この時、三枝の又<sup>また</sup>を裂かないやうにする。このためには、その又を豫めラフィア<sup>1)</sup>などで結んで置くがよい
- (ロ) 施肥して薄く覆土する。
- (ハ) 腋芽を摘み取る。



(ニ) 本月中旬から九月上旬にかけて、稍蕾に似た嫩芽の生ずることがあるから、直ちに摘み取つて新梢を発生させる。

(ホ) 本月は小豆蟲が発生して、夜間に葉や芽先を食ふことがあるから、見付け次第捕殺する。

(ヘ) 毎日午前十時及び午後三時に灌水する。

一、灌水 本月は最も灌水に注意する。特に鉢植には最も必要である。五月などは毎日二三回如露で葉上に撒水し、その他のものは日中葉に水のかゝらないやうに灌水する。

一、蔬菜の播種

(イ) 秋大根の中、美濃早生などは、前月末から本月初にかけて播種し、その他のものは八月中下旬頃播種する。發芽後は二三回間引いて一株一本とし、土寄も十分に行ふ。補肥としては下肥などを二三回施し、止肥は遅くならぬやうにする。

(ロ) 結球白菜は八月中旬頃秋大根のやうに點播する。發芽後三回はかり間

秋の草花の手入

菊

第五章 秋の草花の手入

菊は支那から傳はり、その高雅な花姿と高尚な香氣とは、我が國民の最も嗜好する所である。

菊は開花期によつて夏菊・秋菊・寒菊に分ける。秋菊は最も珍重され、良種が多い。秋菊は花の大いさによつて大菊・中菊・小菊に分ける。菊の繁殖は株分または挿木による。株分をしたものは丈が伸び易いから、中菊のやうに、枝を多く発生させ、支柱に結び附けて高さを適宜に加減することの出来るものを仕立てるのに適し、挿木は大菊

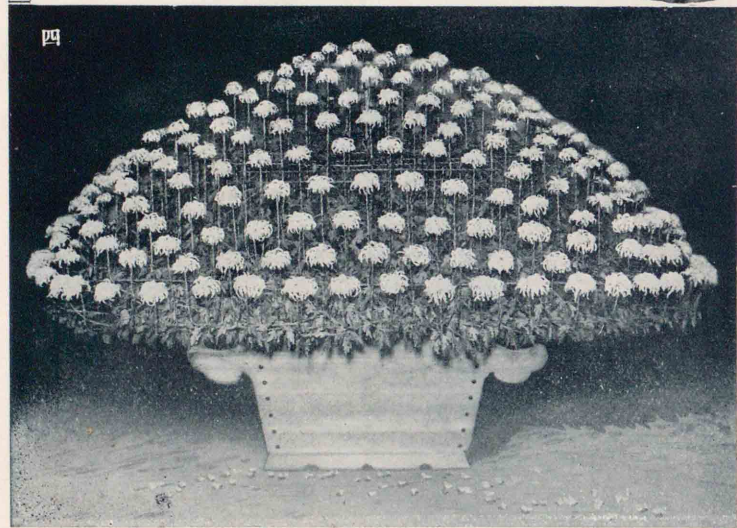
引いて一株一本とする。間引の標準は品種によつて一様でないが、葉色が淡緑で、葉面に毛を有し、葉柄が扁平で短く、葉形が稍丸味を帯び、且つ直立しないものは結球し易いから此等を残す。

一、葱の施肥土入 施肥及び土入を行ひ、次第に葉の分岐點まで土を入れる。

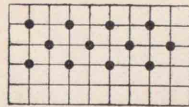
花 菊



(一) 美しい花菊いろいろ  
(二) 細い管の咲花菊一輪  
(三) 厚い物の咲花菊一輪



(四) 千輪咲



三列碁の目

のやうに枝が少く短大に仕立てるのに利用される。株分は早いものは十一月頃行ひ、暖い場所に苗床を設けて植付け、霜除をなし、翌春彼岸頃更に植替をなす。これには、五月上旬頃花壇または鉢に定植する方法と、春彼岸頃株分をする方法とがある。挿木は前に述べたやうに、(園藝作業 六月参照)五月下旬頃から六月中旬頃までに行ひ、莖の二三節を存して切り、砂質土に挿し、如露で灌水し、初は覆の下に置き、次第に日光に當てて發根させる。

菊は鉢または花壇に仕立てる。花壇に植ゑるには、五月頃培養土を入れ、三列碁の目に植ゑる。植付の際は花色の配合に注意し、後方ほご草丈の高いものにする。

菊は苗の長ずるに従つて莖を篠竹に結び付け、開花したら、大輪菊では花瓣の垂下を防ぐために花座はなざを設ける。なほ開花期には油障子を覆ひ、周囲を葎わら簀で圍ふ。

花 菊



作崖懸の菊小

宿根草花

小菊を鉢に作るには、懸崖作とするのが普通である。これは主幹は摘心せず、側枝を度々摘心して枝数を多くし、莖は自然に垂下させるもので、全面花を以て覆はれ、美觀と野趣とに富む。

**宿根草花** 菊のやうにその根が地中に残り、毎年開花する草花を宿根草花といふ。

主なる宿根草花

種 類	繁 殖 法	開 花 期	花 色	草 丈
菊	五・六月頃挿木 冬株分	秋	紅・白・黄など	四〇cm—一m
雛 菊	九・十月頃株分 九月頃播種	早春から夏まで	白・紅	一五cm内外
櫻 草	早春株分	四・五月	淡紅・白・紅	一〇—二〇cm
美 女 櫻	秋または春苗床に 播種	晩春から晩秋まで	紅・白・紫・絞	匍匐性
金 魚 草	春彼岸苗床に播種 六月挿木	晩春から秋まで	紅・黄・白	六〇cm内外
福 壽 草	株 分	二・三月頃であるが正月床 飾にするため開花させる	黄・白・青・赤	一〇cm内外

鈴蘭	株分	四五月頃	白	三〇cm内外
芍薬	株分	晩春	紅白	六〇—九〇cm
桔梗	株分	夏秋の頃	紫白	六〇—九〇cm
アルメリア	九十月頃株分	早春から晩秋まで	紅	一〇cm内外
カーネーション	挿木・播種	春夏	紅紫・白黄	六〇cm内外
ルビナス	秋播種	五六月頃	白・紅紫・藍	六〇—九〇cm



パンジー

パンジーは通常九月頃苗床または鉢の中に播種し、薄く土を覆うて鎮壓した後、藁などで薄く覆ひ、発芽後これを取去る。かうして本葉が二三枚生じた頃、他の床または鉢に假植し、冬の間は霜除をなし、翌年早春花

パンジーは三色並といふ。

秋播草花

壇または鉢に定植する。花壇に植付けるには、約一五cmを隔てて一本植とし、肥料は植付の際に堆肥油粕灰などを施し、補肥として稀薄な液肥を一二回與へる。この花は早春から夏にかけて咲く。秋播草花には、パンジーの外、勿忘草、花菱草、その他のものがある。

主なる秋播草花				
種類	播種期	開花期	花色	草丈
勿忘草	秋	春夏の頃	藍・桃白	一五cm内外
花菱草	九十月頃直播	春夏	黄・紅白	三〇—六〇cm
金盞花	九月頃	早春から夏まで	黄・樺	三〇cm内外
矢車菊	秋彼岸頃	四月から六月まで	紫・藍・紅・白	六〇cm内外
虞美人草	九十月頃花壇に直播	春秋	紅白	三〇—六〇cm

罌粟	九月頃 花壇に直播	六月	白紫・紅綾	九〇cm 一・二m
金魚草	九月上旬	晩春から初夏	紅・白・黄・暗紫・紅色	六〇cm内外
蟲取撫子	秋	春夏の頃	紅(白)	六〇cm内外
飛燕草	秋	五六月	藍紫・白・紅	六〇—九〇cm
パンジー	九月頃苗床	早春から夏まで	紫・白・黄	二〇cm内外
スキートビー	秋	五六月頃	紅・桃・白・紫・藤	一〇—二五cm
アラセイトー	秋	早春から初夏まで	紅・黄・白・紫	一五—三〇cm
フロックス	秋	四—七月	各種丸咲・星咲	三〇—四五cm
ベチュニア (つくばねあさがほ)	秋	五—八月	紅・白・紫・綾	三〇—六〇cm
シレネ	秋	五—七月	紅・桃・白	六〇cm内外
ニゲラ	秋	五六月	白・淡藍色	三〇—九〇cm
アスター	秋	五六月	白・赤・桃・紫	一〇—九〇cm
アリサマ	秋	春から夏	白	一五cm内外

秋植球根草花

秋植球根草花

秋植球根草花は九月中旬頃から十一月頃に植込む。

主なる秋植球根草花

種類	植付	開花期	花色	草丈
水仙	十月	早春	白・黄	三〇—六〇cm
百合	秋	夏	種々	三〇cm—一m
ヒヤシンス	九十月	初春	紫・赤・白・黄	二〇—三〇cm
チューリップ	十月	三—五月	白・紅・黄・紫	二〇—六〇cm
クロカス	秋	早春	黄・白・紫	一〇cm内外
シクラメン	秋	早春	白・紅	二〇cm内外
アネモネ	秋	春	赤・白・藍・紫	三〇cm内外
フリージア	秋	春	白・黄・赤	二五cm内外
ランタナ	秋	春	赤・白・黄	三〇cm内外

◎園藝作業 九月

- 一、朝顔その他の草花の採種。朝顔は良品種の形質を維持するために、他花受精を妨げる。なほ同一の品種でも鉢毎に別々に採種するがよい。
- 一、菊の手入。硫酸アンモニア一五gを水〇二lの割合に溶かしたものを施す。その他、腋芽の摘み取り及び灌水に注意する。また本月は蕾が生ずるから、各枝頭に完全なものを一箇残し、その他のものを除く。なほ本月は暴風雨が襲来することがあるから、その際は風害の虞のない場所に取り入れる。
- 一、秋播草花の播種。金盞花、矢車菊、蟲取撫子、勿忘草、金魚草、飛燕草、パンジー、アラセイトー、フロックス、ペチュニア、スカーレットピーシレネ、アリス、サムニゲラ、アスタリなどは冷床に播種し、虞美人、草罌粟、花菱草などは直播とする。
- 一、宿根草の株分。雛菊、アルメリアなど種々の宿根草は、本月から十月にかけて株分をする。
- 一、秋植球根の植付。水仙、クロカス、チューリップ、ヒヤシンス、アネモネ、ラナン

キュラス、フリージアなどは、本月下旬から球根を鉢または花壇に植付ける。覆土は球根の二三倍の高さにする。露地に植付ける場合には、その上に藁などを覆ふ。

- 一、グラデオラスの貯蔵。グラデオラスの根を掘り出して貯蔵する。
- 一、花園の除草。
- 一、樹木生垣の刈込。
- 一、芝生の手入及び刈込。
- 一、蔬菜の播種。

(イ) 結球白菜以外の菘類、即ち縮緬白菜、山東菜、三河島菜、體菜などは、八月末から本月上中旬までに播種する。此等は條間を約六〇cmとし、施肥して播種し、發芽後二三回間引いて、株間を約三〇cmとする。

(ロ) 蕪菁の中、大蕪菁は八月末から本月上旬にかけて播種する。その方法は秋大根に準ずる。

(ハ) 小松菜、菠薐草、春菊、龜井戸大根、二年子大根などは、本月末から十月にかけ

て播種する。波蕨草は甚だしく酸性土壤を忌む。  
 一、蔬菜の手入。秋大根結球白菜には間引中耕施肥を行ひ、害虫の驅除に注意する。

荳類の栽培法

荳類

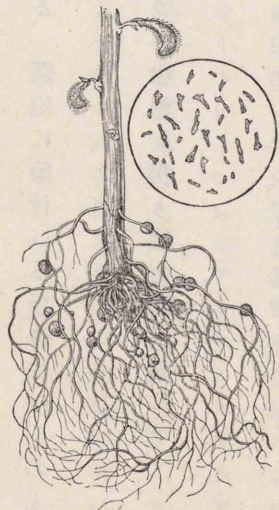
土壤は普通中性であるが、中には酸性を呈するものがある。青色リトマス紙を赤變するものは酸性土壤である。これは土壤を蒸溜水で溶かして試れば分る。

第六章 荳類の栽培法

荳類

荳類は荳科植物である。大豆・小豆・豌豆・蠶豆・菜豆・落花生など、何れも蛋白質脂肪に富む重要な食品である。

荳科植物の根には、大抵根瘤バクテリアが無數に居る。植物はこのバクテリアの媒介によつて空氣中の窒素を吸収するから、窒素肥料を施すことは少くてよい。そして、この種の



と瘤根の物植科荳  
アリテクバ瘤根

作物の跡地には窒素分が多量に残留するから、禾穀類根菜類の栽培に適する。

大豆

大豆は青刈大豆として肥料に用ひ、また枝豆として蔬菜用に供することもあるが、通常は子實を得るのを目的として栽培する。

大豆の用途は頗る廣く、豆腐・味噌・醬油・納豆・菓子などを製造する外、豆油を搾り、その粕は肥料とする。大豆粕は窒素に富む濃厚肥料である。大豆は東洋の特産で、暖地よりも寒地に適し、北海道・東北地方に優良品を産する。

我が國の大豆の産額は國內の需要を充たすことが出来ないため、年々滿洲地方から大豆及び大豆粕を輸入してゐる。

大豆は乾燥した氣候を忌み、旱害を受け易いので、我が國の内地には最もよく適する。土質はあまり選ばないけれども、植質壤土が最もよい。

濃厚肥料とは肥料成分の含有率の高いものをいふ。

チン  
リン  
カリ  
根作

大豆は收穫期によつて夏大豆・秋大豆に分ける。夏大豆は四月下旬・秋大豆は五六月頃播種する。圃地は精耕しない方がよいから、麥の間作とする場合には、約一八乃至三〇cmを隔てて穴を掘り、二三粒づつ點播し、後作とする場合には、軽く耕して約六〇cmの條間に點播する。

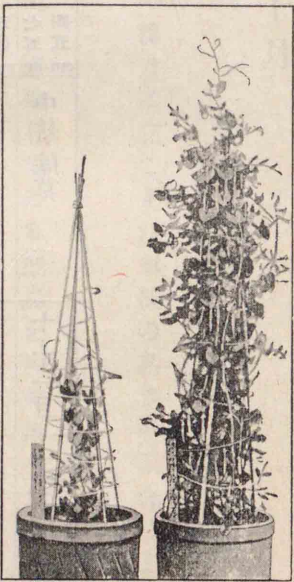
間作と混作

**間作と混作** 果樹園・茶園・菜園などの間に、里芋・大豆・蠶豆などを栽培することがある。これを間作といふ。また牧草栽培に於けるやうに、同一の圃場に二種以上の作物を同時に混合して作ることがある。これを混作といふ。間作は土地利用の効が多く、混作は輪作に於けると同じく養分を利用する効が多い。

連作と輪作

**連作と輪作** 我が國の稻作または麥作のやうに、年々同一の圃場に同一の作物を栽培するのを連作といふ。また數種の作物を年々交互に轉換して栽培するのを輪作といふ。同一の作物を連作すれば、

土中にある養分が缺乏し、または特殊の病蟲害が傳播し易い。甘藷・大根・胡蘿蔔などは連作によつて品質が良好となるけれども、



忌地性の性質  
豆碗たし培栽に壤土いし新(右)  
豆碗たし培栽に地作連(左)

一般の作物殊に豆類・馬鈴薯・瓜類・茄子・トマトなどのやうに病害の多いものは、連作の害が極めて大きい。

大豆の肥料は、土壤や前作物などの關係を考へて、播種の時に加里及び磷酸を適度に與へるがよい。窒素質肥料を施す必要は殆どないけれども、瘠地では生育の初期に多少の肥料を施すがよい。手入としては中耕及び除草を行ふ。

大豆は水田の畦畔堤防その他の空地を利用して栽培し、また桑麥の作間を利用して青刈大豆を栽培するなど、年々の研究努力によつ



て収量を増加し、また購入肥料の節約を圖るがよい。

荳類の栽培

品種	播種期	播種量(一〇aにつき)	株條間	手入	收穫期	收量
大豆	四―六月	六―八一	六〇 一六 cm cm	中耕・除草	九十月	一四〇―三〇〇
小豆	四―六月	四―六一	四五―六〇 一五―三六 cm cm	中耕・除草	八―十月	一〇〇―二〇〇
蠶豆	十月中下 旬	八一―一〇一	六〇 三〇 cm cm	中耕・除草(補肥)	五六月	一六〇―四〇〇
豌豆	十月中下 旬	六一―八一	六〇―七五 三〇 cm cm	中耕・除草(補肥)・支柱	五六月	二〇〇―四〇〇
菜豆	四―六月	六一―八一	六〇―七五 三〇 cm cm	中耕・除草(補肥)・支柱	九月	二〇〇―
落花生	四―六月	八一―一〇一	四五 七五 cm cm	中耕・除草	十一月	一〇〇―一四〇

園藝作業  
十月

◎園藝作業 十月

一 菊の手入

(イ) 篠竹の立替 篠竹は枝の後方に立て、また三枝の高さの工合によつて枝の前後をも工夫する。

(ロ) 蚜蟲の驅除 葉裏及び苗に繁殖してゐる蚜蟲を、エキスルオールの二十倍液で驅除する。

(ハ) 雨露の豫防 蕾が色づけば、雨天の時または夜間は軒下などに置く  
(ニ) 輪臺の取付 本月下旬から十一月上旬にかけて、輪臺即ち花座を取付ける。一文字咲には畫用紙を輪臺に載せる。

一 秋播草花類の假植 秋播草花類の發芽したものは、發芽後速かに覆を取つて日光に當て、また苗の稍伸びた時、暖所に設けてある冷床に假植する。  
一 耐寒性の弱い草花の防寒 ゼラニウム・マーガレット・ランタナ・アキランタスなどは、温室または温床の中に移して越冬させる。

一 芝生の除草施肥 施肥は、硫酸アンモニアの薄いものを、噴霧器または如露

で平均に散布する。  
一、蔬菜及び麥の播種

(イ) 豌豆は條間を約六〇乃至九〇cmとし、これに約三〇乃至六〇cmの條間を隔てて二三粒づつ播種する。豌豆は連作を忌むから注意すべきである。  
(ロ) 蠶豆は約六〇cmの距離を以て作條を切り、これに約三〇cmの株間を隔てて二三粒づつ播種する。

(ハ) 麥の播種をする。

二、蔬菜の手入

(イ) 八月に播種した秋大根結球白菜は、九月中に間引が終つて既に一本立になつてゐるから、その株間に十分補肥を施し、且つ根元に土寄をなし、また害虫を驅除する。

(ロ) 九月に播種した苾類も、また本月初頃までに間引を終へ、株間を三〇cm内外とし、薄い下肥などを數回施し、補肥を十分に與へ、且つ害虫を驅除する。  
(ハ) 葱に土寄施肥をして白色部を多くする。

麥の栽培法

我が國の麥作

我が國の麥作面積は年々少しづつ減少しつつある。

麥の利用

二毛作とは一年に同一の圃地に二回栽培すること、例へば水田に稻と麥とを栽培するやうなのをいふ。

麥作の改良

第七章 麥の栽培法

我が國の麥作

麥は米に次いで重要な我が國民の食糧である。故に政府は麥作に對して獎勵を加へつゝある。

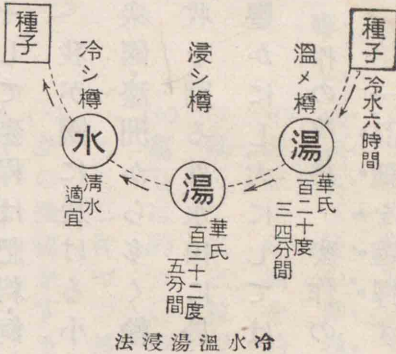
麥の利用

麥はその利用が頗る多く、大麥は麥飯・餡・味噌・醬油・麥酒・飼料などに用ひ、小麥は小麥粉・麵・麩・麵類・醬油・菓子・麩・飼料などに用ひる。そして、麥稈は肥料・飼料・麥稈眞田などに用ひる。

我が國に於ける小麥粉の需要は著しく増加し、年々加奈陀・北米合衆國・濠洲から多く輸入してゐる。従つてその栽培法を改良して増收を圖る外、水田に於ける二毛作を勵行して、小にしては農家經濟を豊かにし、大にしては國富を増進すべきである。

麥作の改良

第一、品種を選択する。このためにはその府縣の獎勵品種を採用



するがよい。

第二、麥種の鹽水選をして優良な種子を選ぶと共に、冷水温湯浸法を行つて黑穗病を豫防する。冷水温湯浸法は麥種を六七時間冷水に浸し、華氏百二十度の温湯で三四分間温めた後、華氏百三十二度の温湯に正しく五分間浸し、それを冷水で洗滌して病菌を殺すのである。殺菌したものは直ちに播種してもよく、また乾かしておいて後日播種してもよい。

第三、播種期を誤らないやうにする。播種は條播または摘播によるのであるが、作間株間の關係に注意して、最も適當な播種法によるがよい。麥の間作として往々他の作物を栽培することがあるが、この場合には播種の際に豫めその作條間の寸法を定めて置くことが

大切である。

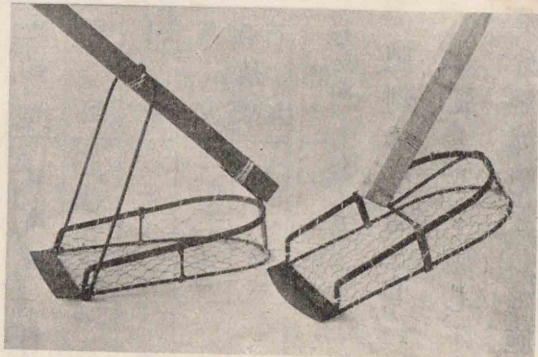
第四、肥料の配合に注意する。肥料の配合には、窒素と共に磷酸や加里が不足しないやうにする。

西が原農事試験場に於ける大麥施肥の一例

肥料名	基肥量	補肥量	計	窒素			磷酸		
				量	成分	加里	量	成分	加里
堆肥	一〇一三 kg	—	一〇一三 kg	七九九 kg	四〇五 kg	六〇七五 kg	—	—	—
下肥	二七〇 kg	—	二七〇 kg	二六四八 kg	〇七〇一 kg	一四五九 kg	—	—	—
藁灰	一五 kg	—	一五 kg	—	〇一八八 kg	〇六七五 kg	—	—	—
過磷酸灰	二三 kg	—	二三 kg	—	三三〇四 kg	—	—	—	—
計	—	—	—	一〇六四七 kg	八二四三 kg	八二〇九 kg	—	—	—

土用過ぎての稻の肥、彼岸過ぎの麥の肥。  
速効性の肥料とは肥料の効果が早く顯れるもの

肥料の配合と共に施肥の時期を誤つてはならぬ。肥料はなるべく基肥として施し、下肥硫酸アンモニアのやうな速効性の肥料は一部分を補肥として施すがよい。この場合には施肥の時期が後れな



土入鋤簾

いやうにする。

第五、麥の手入に注意する。中耕土寄は補肥と同時に進行するのが便利である。麥踏

は霜柱の害の著しい所や麥の徒長する場合に行ふ。土入は土入鋤簾または鍬で條

間の土を麥の上から根際へ振込むことで、土の厚さは一二乃至一五cmから三〇cmま

でに及ぶことがある。これは株を四方に擴げて空氣の流通や日光の透射を良くし、

莖や葉の發育を旺盛強剛にするために行ふのである。

第六、收穫期を誤らず遲滯なく刈取り、霖雨の害を避ける。そして、乾燥及び俵装をよくし、貯藏中に蟲害を被らないやうにする。

麥の病蟲害

麥の病蟲害

麥の病害には、黑穗病・赤澁病・立枯病・白澁病・斑葉病など



大黒の麥穗病

がある。何れも細菌の寄生によつて起る。黑穗病を豫防するには、播種前

に冷水温湯浸法を行ひ、また被害穗を抜き取る。赤澁病を豫防する

には、堆肥下肥などの過用を避け、日光の

透射や空氣の流通をよくし、また施肥期

が後れないやうにする。立枯病を防除

するには、窒素質肥料の過用を避け、被害

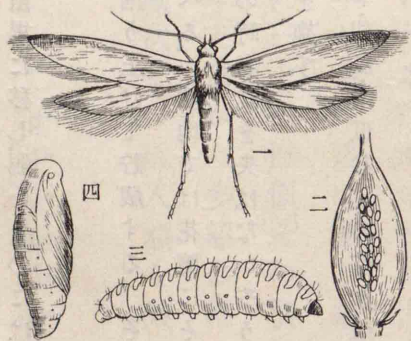
株の拔取・焼却を行ふ。

麥の害蟲には、金龜蟲・叩頭蟲・夜盜蟲・蚜

蟲・麥蛾などがある。此等は見附け次第

捕殺し、麥蛾のやうな貯藏中の害蟲は、コクゾールまたは二硫化炭素

で燻蒸するがよい。



麥蛾 (一) 成蟲 (二) 卵 (三) 幼蟲 (四) 蛹 (のもたいつに粒穀)

◎園藝作業 十一月

一、菊の手入。菊花が五六分咲けば、雨日光などを遮るために小屋掛をなし、(天井)鉢を洗つて小屋の中に配置して眺める。花期の終つた菊の親木は名札を整理して、鉢のまゝ又は鉢から抜いて苗場に移し、弱いものには霜除を與へる。

一、夏咲草花の採種。カンナ、ダリアなどを掘り上げて貯蔵する。その貯蔵は箱の中の砂に埋めて凍害のない處に貯へる。暖地では花壇にそのまゝおき、葉落葉などを軽く覆ふのもよい。この時名札を失はないやうにする。

一、霜除防寒。草花の苗床に霜除防寒の設備を施す。

一、大麥の播種。大麥を播種して、莖春、茄トマト、胡瓜、南瓜などの苗を植付ける準備をする。大麥の條間はその間に植付ける蔬菜の種類によつて加減する。なほ大麥の播種は十月下旬から本月上旬に行ふがよい。

一、蔬菜の手入。小松菜、菠薐草、豌豆、蠶豆など、冬を越す蔬菜には笹などを立てて霜除をする。

一、芋、甘藷、大根の貯蔵。

第八章 養禽 その一

我が國の養  
雞

<sup>1)</sup>昭和八年度調  
昭和三年には支  
那から六百九十  
萬圓の雞卵を輸  
入した。

雞の種類

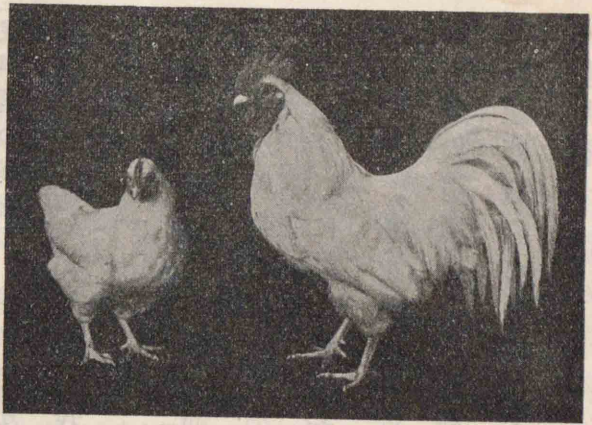
我が國の養雞

養雞は少しの資本と努力とて行ふことが出來、その上趣味に富んでゐる。我が國の養雞は年と共に盛になり、最近の養雞戸數は百十四萬戸(農家全戸の六割)、年産卵數は約三十四億個、その價格は七千萬圓に及んでゐる。而して、雞卵は年々支那から多額の輸入をしてゐたが、現今では内地の増産によつて漸次その輸入額を減じたのみならず、逆に輸出するやうになつた。

雞の種類

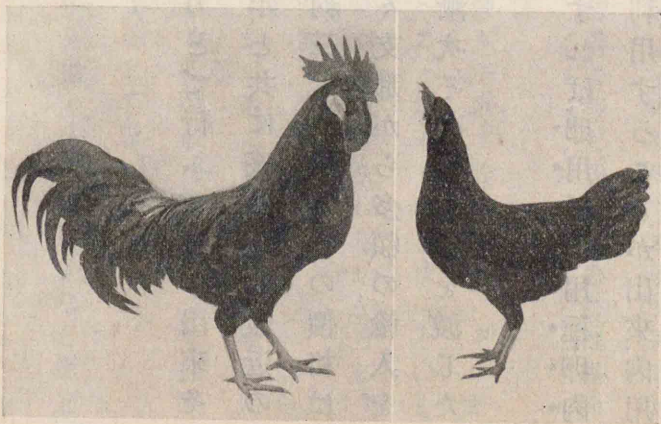
雞をその用途によつて分類すれば、卵用種、肉用種、卵肉兼用種、愛翫用種となる。卵用種でも肉を利用することが出來、肉用種にも産卵數の多いものもある。

一、卵用種



レ ホ グ レ 色 白

十箇である。  
(ロ)ミノルカ 地中海ミノルカ島の原産で、黒色ミノルカが最も廣く飼は



カ ル ノ ミ 色 黒

(イ)レグホン イタリアの原産で、白色レグホンは卵用鶏の中最も廣く飼はれ、

體が軽く、  
姿勢が優  
美で、放飼  
に適する。  
産卵數は  
一年平均  
百五十箇  
乃至百八

二、肉用種

この外、卵用種にはアンダルシヤン・ハンバークなどがあ

(イ)ブラマ 東印度の原産で、體が大き

く、雄は約五、四kg(一貫四百四十匁)、雌は約四、五

kg(百匁三)になる。淡色及び暗色の

二種がある。強健溫和で、肥大し易

く、肉は佳良である。

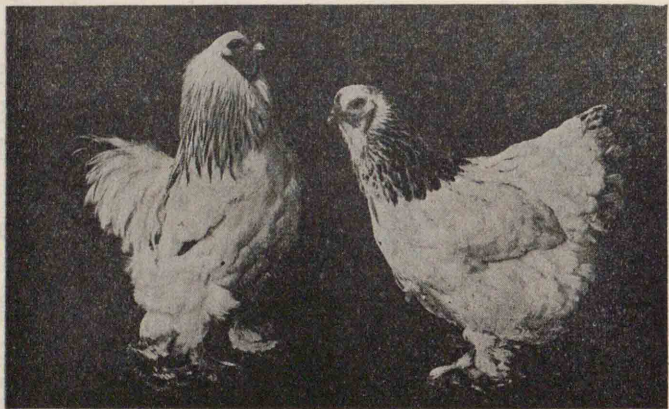
(ロ)コーチン 支那の原産で、體が重大

で、脚毛が多く、柵飼に適し、母雞とす

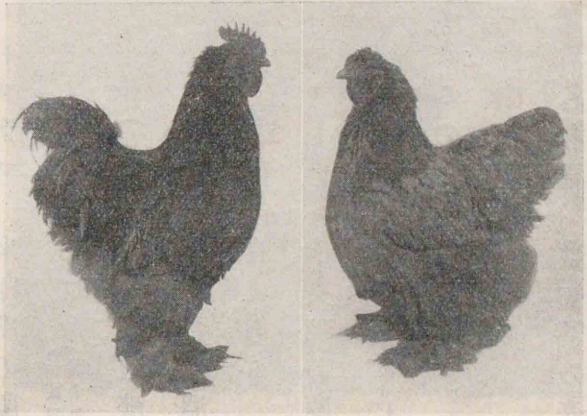
るのによい。

三、卵肉兼用種

(イ)名古屋 愛知縣の産で、明治初年バ

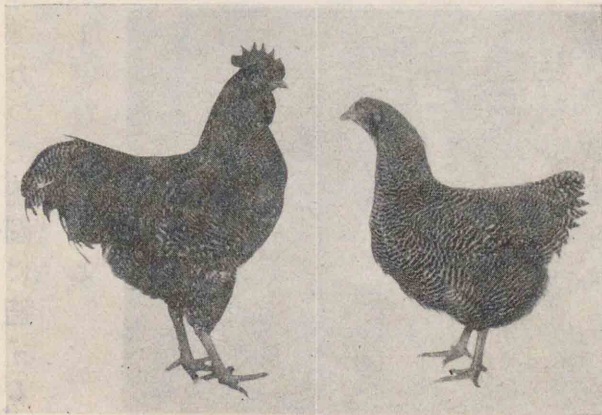


マ ラ ブ 色 淡



シチーコフバ

(ロ) プリマウスロック 米國の産で、兼用種として優良なものである。性質は頗る温順で、母雞とするのによい。



リッロスウマリブ斑横

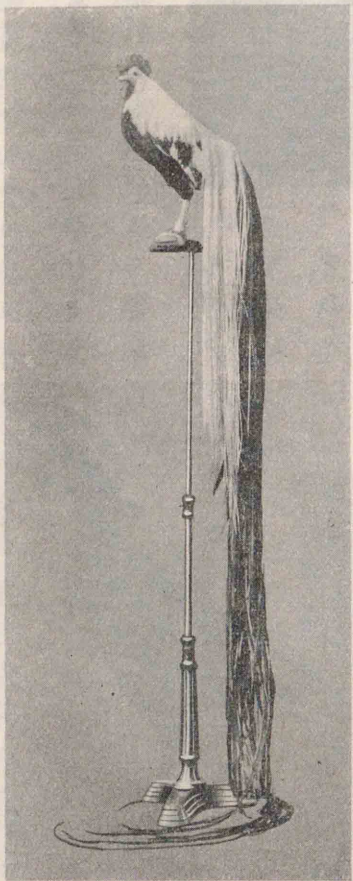
フコーチンと在來種との交雜によつて出來たもので、我が國では白色レグホンに次いで廣く飼はれる。性質は温順、且つ頗る強健で、よく我が國の風土に適し、柵飼するのによい。

この外、兼用種には、ワイアンドット・オーピントン・ロードアイランド・レッドなどがあつた。

#### 四、愛翫用種

(イ) ちやぼ (矮雞) 我が國の産で、體が極めて小さく、雄は約六〇〇g (十<sup>百</sup>六<sup>六</sup>)、雌は約四九〇g (十<sup>百</sup>三<sup>三</sup>)に過ぎない。容姿が極めて愛らしく、性質が温順である。

(ロ) をながどり (長尾雞) 高知縣の産で、尾羽が一年に約一m (伸<sup>しん</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>ん)も伸長し、數年で六m (餘<sup>じゆ</sup>二<sup>二</sup>丈)にも達し、極めて奇觀



雞尾長

て奇觀

を呈する。

(ハ)しやも(軍鶏) 一にしやむとも  
いひ、骨格が太く、頸が長く、容姿

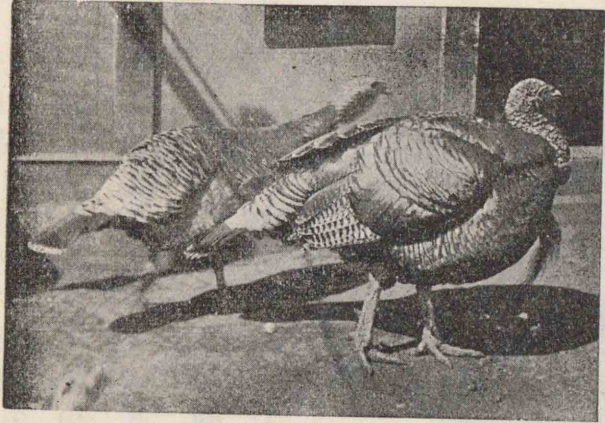
が勇壯  
で、美味  
である。

その他の家禽

一、しちめんてう(吐綬雞) 米國の原産で、  
肉が極めて美味である。歐米ではそ  
の肉をクリスマス祭に於ける料理用  
として珍重する。

二、食用鳩 鳩は古來通信及び愛翫の目  
的で飼養されたが、今日は食用鳩も出

その他の家禽



青銅色吐綬雞



しやむ

現した。食用鳩にはキング(米國)カル

ノー(佛自)ホーマーなどの品種がある。

三、小鳥 小鳥を飼つて、その美しい鳴聲

を聞いたたり、その麗しい羽色を愛した

り、或はその生活状態を観察したりす

ることは、實に精神的の娛樂であるば

かりでなく、また學術上の參考にもな

る。例へば、今日まで知られてゐなか

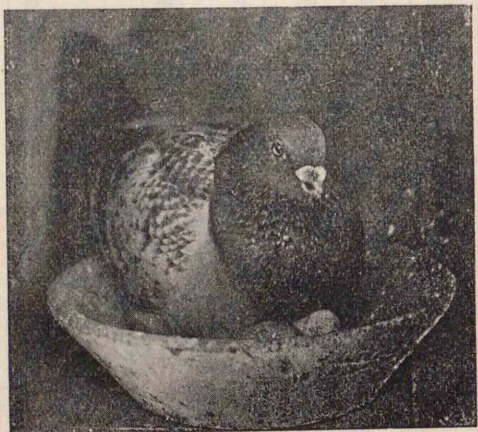
つた種々の面白い習性や、卵から雛になり、雛から成鳥になるまで

に變化する有様や、四季年齢などによつて起る羽色の變化や、その

他種々の鳥の雜種を作つて遺傳の法則を研究することなどがそ

れである。

小鳥の飼養について心得べきことは、第一、鳥は勿論凡べての器



食用鳩の抱卵



物を清潔にすること、第二、餌水を與へることを怠らないこと、餌料は播餌としては、稗粟などに菜種・胡麻・麻の實などを加へて與へ、摺餌としては、ハツタイの粉と生餌とを混ぜ、これに青味(菜類)を加へ、水で練つたものを與へることなどである。飼鳥の餌は鳥の習性を知つて、これに適するものを與へることが大切である。

主なる飼鳥

鳥名	産地	摘要
金ナ 絲リ 雀ヤ	原産地は大西洋にある アフリカ洲の一小島	飼鳥として世界各地に産する。
頬ほ 白じろ	日本の各地	四月頃から七月頃までに二回子を育てる。
文ぶん 鳥つ	ジャバ・スマトラ・馬來半島・印度・アフリカ	籠の中で容易に巢引きが出来る。
十じよ 姉し 妹まつ	日本	春秋二期に二腹つつ容易に巢引きが出来る。
雲ひ 雀り	歐亞兩大陸の温寒帶 北部アフリカ	鳴聲がよいので知られてゐる。蟲を食ふ。

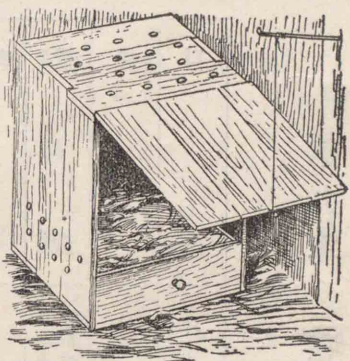
第九章 養禽 その二

雞の蕃殖

種卵は優良な母雞の産んだもので、形が整ひ、殻に厚薄がなく、大いさが揃ひ、産卵後二週間以内のものがよい。孵化には通常母雞を用ひる。母雞には孵化に經驗のある溫和な

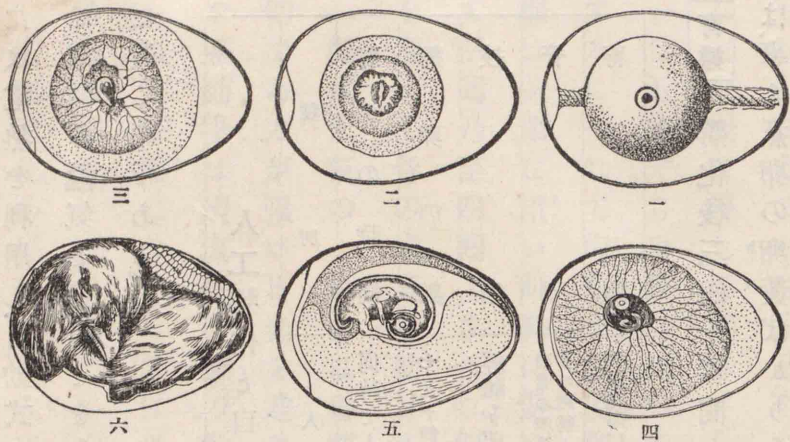
四し 十じよ 雀から	日本・支那・朝鮮・滿洲	非常に鬭争を好み、弱い鳥を殺すことがある。
脊せ 黄き 青せい 鸚いん 哥こ	南濠洲	强健な鳥である。
鸚あふ 鵝わ	原産はフィリッピン・濠洲	他の鳥と雜居させてはいけない。大麥・玉蜀黍などを與へる。
鶉うづら	日本及び亞細亞東部	强健な鳥で、鳴聲を發する外、卵は滋養に富んでゐる。
鴛をし 鴛を	日本・支那・朝鮮 東シベリヤ	雌雄二羽が常に同居する。
鶯	日本	鳴聲がよい。
目	日本	愛らしい活潑な鳥である。

ものがよい。孵化に最もよい季節は春と秋とで、普通一腹に十二箇内外抱かせる。



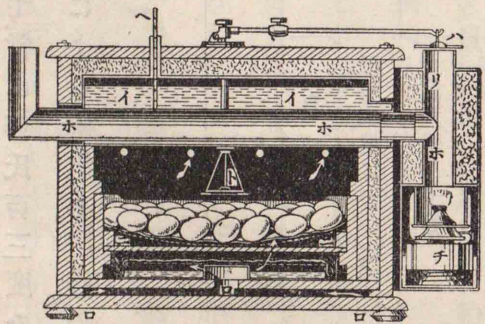
巢箱としては籠箱などを用ひ、その中に稻藁・乾草などを敷き、鶏舎の一隅の薄暗い處に置き、母鶏をして落着いて抱卵させる。毎日約二十分間づつ、食を攝り水を飲むために巢を離れるから、此等を巢の附近に準備しておいて十分食べさせ、なほ砂浴をさせるがよい。

母鶏が抱卵し始めてから、四五日目と二週間目ぐらゐに、夜間母鶏の腹から卵を一箇づつ取出し、電燈などで透視して検卵する。その際、全く明るく見えるものは無精卵であり、また眞黒のものは腐敗卵であるから、何れも取除くがよい。發育中のものは、一點(塊血)の周圍に血管が發育してゐるのを認めることが出



抱卵中に於ける鶏卵の變化 (数字は順序を示す)

來る。抱卵後約二十一日を経ると、  
雛が卵殻を破つて出て來る。  
母鶏の代りに孵卵器を用ひて孵  
化させるのを人工孵化といふ。こ  
れに對して前述の母鶏による孵化  
を自然孵  
化といふ。  
人工孵  
化は大仕  
掛の養雞  
をする時  
に適用さ  
れ、石油ま



孵卵器

管火(ホ) 匣抽(ニ) 蓋(ハ) 孔氣空(ロ) 槽水(リ)  
突煙(リ) プンラ(チ) 器温調(ト) 計暖寒(ヘ)

たは電熱を利用し、自動式に温度を調節して、常に華氏百三度を保たせ、適當の濕氣と空氣とを與へて、恰も母雞による孵化と同様の状態に置くのである。

人工孵化と自然孵化との比較

種別	人工孵化	自然孵化
孵化の時期	何時でもよい	母雞が巢についた時に限る
孵化の數	七八十箇乃至二百箇或はそれ以上	十箇乃至二十箇
技術	經驗を要する	容易である
管理	温度の調節 卵の廻轉と外氣の接觸とを要する	母雞の運動が必要である
育雛	假母器による	母雞に任せる

育雛

育雛 孵化後三四十時間を経て餌付をする。最初の二日間ぐらゐは、専ら煮卵の卵黄ばかりを細かに碎いて、雛十羽につき一日一箇ぐ

らゐの割合で、一時間乃至二時間を隔てて與へる。三日頃から、小米などを湯に浸して柔かくし、これに軟かい青葉の刻んだものを混ぜ、一日五回ぐらゐ與へ、決して一時に飽食させてはならぬ。雛の成長するにつれて、肉類や小魚類を煮または焼いて與へると發育を促す。雛は次第に粗い餌料に慣れさせるとともに一日の給食回數を減じて、三回乃至四回とする。餌料の中には時々貝殻の碎片や骨粉などを混ぜて骨の成長を助け、また常に清水を與へる。  
雛は天氣のよい日は、母雞と共に外に出して運動させることが大切であるが、強い日光を避け、また雨に逢はせないやうにする。巢箱や運動場は清潔にし、雛の健康を増進させることが最も肝要である。雛を母雞につけるのは長いほごよいが、普通三週間乃至一箇月ぐらゐで離す。

人工孵化の場合には人工育雛を行ふ。人工育雛は母雞による育

鶏よりも一層綿密に注意し、給食も規則正しくする。冬季に孵化した時は温湯利用の假母器を用ひるがよい。春暖の候でも夜風を防ぐことが必要である。

飼養

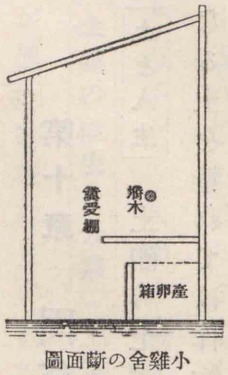
**飼養** 鶏は雑食性で種々の食物を好む。その主なものは穀類・青草・青菜類・虫魚類などの動植物質飼料である。そしてこれに貝殻などの石灰質を加へるのがよい。石灰質は産卵鶏には特に必要である。放飼の場合には朝夕二回ぐらゐ給與する。朝晝はなるべく練餌とし、夕食は粒餌とするがよく、また清水を給することを忘れてはならぬ。換羽期及びその前後には、滋養に富む餌料を給することが必要である。

<sup>1)</sup> 肥育は家畜や家禽の肉を利用する際にその肉量を増し肉質をよくするために行ふ。

鶏を肥育するには、運動を禁じ、軟かくて滋養に富む餌を多く與へ、暗所に静居させる。肥育するには生後三四箇月頃がよく、雄鶏は去勢を行ふ。

鶏舎及び管理

鶏舎及び管理



小鶏舎の断面圖

鶏舎は、少數の鶏の場合には物置などの一側を利用して造ればよい。排水がよく、空氣の流通や日光の透射がよく、南向の暖かい所がよい。鶏舎の面積は十羽に對して約〇・〇三三a(一坪)を要し、運動場は約〇・三三a(一〇坪)でよい。

鶏舎は通常木造で、周圍を壁にし、屋根を葺き、床を設け、窓には戸をつける。埒木(じまき)の下には糞受棚を設ける。舎外運動場の外、雨天の際の舎内運動場も必要である。運動場の一角に砂浴場を設け、時々砂を入れ換へて常に軟かくし、硫黄華を混ぜて羽蟲を豫防する。

産卵箱は寢室または舎内運動場の一角に置く。鶏舎は朝早く開き、夕方遅く閉ぢ、鶏をして晝間十分運動して食物の消化を助けさせることが必要である。舎内は常に清潔に保ち、糞は一箇所に集め、日に乾かして貯藏すれば貴重な肥料となる。

<sup>1)</sup> 埒木は地上約四五乃至六〇cm、壁から約四五cmに架し、糞受棚はその下約一五cmの所に設け、幅六〇cm餘のものを用ひる。  
<sup>2)</sup> 産卵箱は縦約四七cm、横約四〇cm、深さ約一五cmのものを用ひる。

作業の目的  
勤勞精神

◎園藝作業 十一月

- 一 菊の株分さうじ 冬至頃に株分して、霜除をした冷床または箱の中に植付ける。
- 一 培養土の調製 落葉または藁などを土と交互に堆積し、數回下肥などをかけて腐熟させ、菊朝顔その他鉢物の植付に用ひる準備をする。
- 一 花壇の耕起 花壇を掘り起して寒氣にさらし、十分風化させる。
- 一 苗及び鉢物の手入 冷床に假植した秋播草花及び鉢植の花類に、時々少量の微溫水を午前中に與へる。
- 一 春咲球根の施肥 芽が約3cm地上に現れてから施肥する。

園藝用土地

土と人生

**土と人生** 土即ち土壤はあらゆる作物を育み養ふ慈母である。母なる土を離れては作物はない。そして、作物のない人生は想像することが出来ぬ。土に生れ、土に生き、やがては土に歸るべき人間が、土

第十章 園藝用土地

の香に無限の歡びを感じ、土に對する強い愛着を感ずるのは、極めて自然のことであつて、土を知り、土を愛し、土の力を延ばすことは、實に土の子たる人間の義務である。

土壤の成生と分類

**土壤の成生と分類** 土壤は、もと岩石を以て蔽はれてゐた地球の表面が、風雨・寒暑などの自然の力により、長い年月の間に破壊され、次第に微細な粒子となつたもので、この作用を風化作用といふ。風化作用は今日でも不斷に行はれつゝある。

礫<sup>1)</sup> 徑四cm以上の粒子  
砂<sup>2)</sup> 徑四cm以下  
一〇・〇五cm以上の粒子  
粘土<sup>3)</sup> 徑〇・〇五cm以下の粒子

土壤は大小無數の土粒から成つてゐる。礫・砂及び粘土がそれである。また土壤の中には動植物體の腐朽した所謂腐植が含まれてゐる。土壤は礫・砂・粘土及び腐植などを含む分量によつて次の表のやうに分類される。

土壤はまたその成因により、これを殘積土・泥炭土及び運積土に三大別される。殘積土とは岩石の風化物が舊位置に存するものをい

土壤の種類と性質

種類	成分	耕鋤	重量	生産力
礫土	五割以上の礫を含むもの	困難	大	細微土に富むほど生産力が増す
砂土	一割三分以下の粘土を含むもの	容易	大	粘土の多いものは壤質砂土といひ、生産力が増す
埴土	五割以上の粘土を含むもの	困難	小	砂に富むほど生産力が増す
壤土	二割五分乃至三割八分の粘土を含むもの	中庸	中	生産力が最も大である
腐植土	二割以上の腐植土を含むもの	容易	小	砂・粘土に富むほど生産力が増す

ひ、泥炭土とは植物體の腐敗によつて生じた物質を多く含む土壤をいふ。風に運ばれた土砂の堆積して出來た土壤を風積土といひ、水流の作用によつて堆積して出來た土壤を水積土といひ、この二者を總稱して運積土といふ。水積土は各種の土砂の雜つたもので、生産力が最も大きい。我が國の耕地の大部分はこれである。

土層

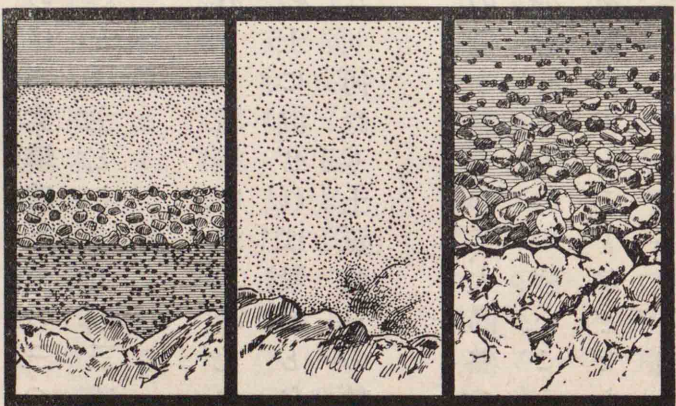
作土ともいふ

底土ともいふ

土壤の成分

**土層** 土壤の中、これを耕して作物を栽培する部分を耕土といひ、その下方にある部分を心土といふ。耕土は軟かくて養分に富み、且つ暗色である。耕土の深さは一〇乃至三〇cmであつて、普通は一〇cm前後である。

**土壤の成分** 一握の土壤を秤量した後、十分これを乾かして秤量すると、中に含まれてゐた水の目方だけ減る。そして、更にこれを灼熱して秤量すると一層目方が減る。これは腐植などの土中の有機分が燃えて灰となつたからであつて、後に残つたものは凡べて無機分である。



土積水

土積風

土積殘

無機分は、**硅酸**、**礬土**、**鐵**、**マンガン**、**石灰**、**苦土**、**加里**、**曹達**、**硫酸**、**鹽素**、**硝酸**などであつて、何れも植物の生育に必要である。この中、比較的土中に少く、而も作物が割合に多く要求するものは、**窒素**、**磷**、**酸**、**加里**の三つであつて、これを**肥料**の**三成分**といふ。肥料とは主としてこの三成分を指すのである。

**有機分**は主に腐植から出来たものである。腐植は通常暗色を呈し、水を吸へば膨れ、乾けば縮む。これを砂土に混ぜれば緊密となつて保水力を増し、埴土に混ぜれば膨軟となり、何れも土質改良の効が多い。

農業上に於ける腐植の効用は、(一)土壤の色を黒くして、太陽熱の吸収を増し、土温を高めること、(二)水分や養分を貯へる力の強いこと、(三)腐植自身が分解して、窒素その他の養分を補給することなどである。かやうに土壤中に於ける腐植の効は大きいから、堆肥、厩肥の施用は

勿論、**豆科植物**、**緑肥作物**の栽培などによつて、土地を巧みに利用して有機分の増加を図るがよい。

**土壤の重さ**  
土壤の重量は粘土よりも砂土が大である。

**土壤の重さ** 土壤には耕鋤の際に多くの力を要するものと、さうでないものがある。砂土は軽く、埴土は重いとは、この點からいられるのである。

**土壤中の空氣**

**土壤中の空氣**

作物は、莖や葉に於けると同じく、根に於ても呼吸作用を営むから、空氣を供給することが必要である。また土壤中の肥料が分解して養分となるためにも空氣が必要である。圃場を中耕し、排水に注意するのは、土壤中に空氣を流通させるためである。通氣性は砂土が最も大きく、埴土は小さく、壤土は兩者の中間であるが、同一の土壤でも耕鋤によつてこれを大きくすることが出来る。

**土温**  
土壤中に空氣が缺乏すれば有害な成分が生じて作物の生育を害することがある。

**土温**

**土温** 土温が高ければ、土壤の風化や肥料の分解がよくなり、従つて作物の生育をよくする。土温は主として太陽熱によつて生ずるが、

土壤中の水

一般に、(一)南向の傾斜地は北向の傾斜地よりも土温が高く、(二)暗色の土壌ほど陽熱の吸収が多く、従つて土温が高く、(三)腐植を多く含む土壌は砂質に富む土壌よりも土温が高い。

土壤中の水

土壤中の水は直接に養分となるばかりでなく、種々の養分の分解やその運搬に役立つもので、恰も動物の循環器じゆんくわんきのやうな働をする。しかし、土壤中の水が多過ぎれば、土温を低め、空氣の流通を妨げて、作物の生育を害することがある。

土壌と肥料

土壌と肥料

土壌はその中に溶解してゐる物質を吸収し、また空氣中にあるガスをも吸収してこれを保持する力を有する。これを土壌の吸収作用といひ、園藝作業上に重要な關係を有する。肥料成分の中、吸収され易いものは、アンモニア及び加里であつて、燐酸の吸収は比較的長時間を要する。そして、畑地は水田より肥料を吸収することが早い。

園藝作業  
一月

◎園藝作業 一月

- 一、培養土の調製 十二月に引續き、時々下肥などを撒布してその腐熟を圖る。
- 一、花壇の修理その他 花壇の修理模様替などをなし、或は花壇を深耕して堆肥を入れる。
- 一、霜除の見廻り
- 一、春咲球根草花の肥培その他 春咲球根草花即ち水仙、チューリップ、ヒヤシンスなどの肥培及び名札の整理をする。
- 一、苗及び鉢物の手入 十二月に引續いて行ふ。

園藝作業  
二月

◎園藝作業 二月

- 一、春咲球根草花の施肥
- 一、苗及び鉢物の手入 一月に引續いて行ふ。



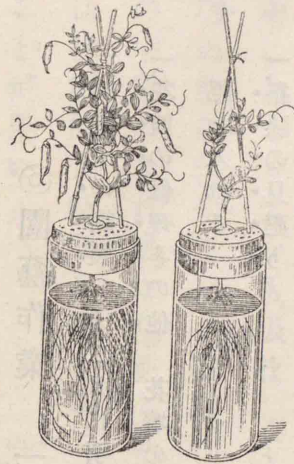
第十一章 園藝と肥料

**園藝と肥料** 作物に肥料の必要なことは、人間に食物が必要であるのと變りがない。作物の生育を盛にし、收穫を多くするには、作物の要求する肥料を十分與へることが肝要である。榮養が不足すれば、如何に優良な種子によつて如何に周到に栽培しても、その目的を達することは出来ぬ。

肥料の分類

肥料の分類

肥料には種類が多い。その給源から有機質肥料(動物質肥料)、無機質肥料(礦物質肥料)に分け、その成分によつて窒素肥料、磷酸肥料、加里肥料に分け、加工の如何によつて天然肥料、人工肥料に分け、効驗の遅速によつて速効肥料、遅効



水中培養の試験  
料肥全完(左) 料肥素窒無(右)

肥料(動物質肥料)に分け、その成分によつて窒素肥料、磷酸肥料、加里肥料に分け、加工の如何によつて天然肥料、人工肥料に分け、効驗の遅速によつて速効肥料、遅効

肥料に分け、その反應によつて酸性肥料、鹽基性肥料、中性肥料に分け、また製造購入の關係によつて手間肥(肥料自給)、金肥(肥料購買)に分ける。

手間肥は下肥、堆肥、綠肥のやうに農家の勞力によつて製造利用される肥料で、成分が少く、また同一成分でも大なる容積を要するのが常である。腐熟した下肥のやうに極めて速効性のものもあるが、通常は肥効が遅い代りに、地力の増進には効果のあるものが多い。手間肥は農業上基礎肥料として缺くことが出来ぬ。

金肥には、油粕類、魚肥、米糠などの天然肥料と、硫酸アンモニア、過磷酸石灰などの化學肥料(人工肥料)とがある。金肥は概して成分が濃く、容積が小で運搬に便利である。天然肥料は概ね有機物及び三成分を含み、水に溶解し難く、化學肥料は有機物を全然含まず、肥料成分も一つまたは二つしか含まない。併し、成分は最も濃厚であつて水に溶解し易く、肥効が極めて迅速である。従つて一種だけでは或要素に偏す

るからなるべくその偏用を避け、手間肥の施用と相俟つて肥料の効果を擧げるやうにする。

主なる手間肥

種類	肥料の成分		作り方	施し方	備考
	窒素	リン酸加里			
下(人糞尿)	〇・五七	〇・二三	〇・二七	① 汲み出して肥溜に貯蔵する ② 肥溜は日光を避けた陰所を選んで設け必ず蓋をする ③ 貯蔵日数 春秋 七—一〇日 夏 五—六日 冬 二—三日	新鮮なもの(尿素を含む)は酸性で流失し易く作物の根を傷める事がある。腐熟したもの(アンモニア)は微アルカリ性で土壤によく吸収される
堆肥	〇・五八	〇・三〇	〇・五〇	堆肥材料 厩肥・鶏糞・糞・塵芥など 積込 一—二mの高さに層々積込んで汚水を溜ぐ 切返 二—三回	堆肥舎 周囲 土壁 (コンクリート) 床 三和土 勾配・溜 入口 北側
牛糞	〇・二七	〇・一五	〇・〇五	① 基肥 ② 他の肥料と混用 ③ 腐熟後利用 ④ 土壌改良の意味では稍未熟のもの	
馬糞	〇・四五	〇・三二	〇・三五		
鶏糞	一・六三	一・五四	〇・八五		
蠶糞	一・四〇	〇・三〇	〇・一〇		

種類	肥料の成分		播種期	播種量	刈取期	収量	使用法	備考
	窒素	リン酸加里						
紫雲英	〇・四八	〇・〇九	八月下—九月上	早生 六一—七四分 晩生 四—一花の頃	七八—八七	一三—一七	① 押切つて二〇—三〇cmに刻んで ② 家畜飼料としてその糞を利用して ③ 石灰を施して有機酸を中和する必要がある	根瘤バクテリアの空中窒素利用 菜園・果樹園などの間作として栽培すれば有利である
苜蓿	〇・七八	〇・一一	九月中—下月	一—一六 水田耕鋤の前	七五—一〇〇	一七—二二		
青刈大豆	〇・五八	〇・〇八	三月上—四月下	一—一六 同前	七五—一〇〇	一七—二二		
豆	〇・六二	〇・二〇	九月中—下	六一 同前	三五—四五	二六—三五		
木灰	—	—	—	—	—	—	火に燃やす 篩つて後俵につめ湿らせない 堆肥に出来るものはなるべく堆肥にする(窒素を失ふから)	下肥 過磷酸などと混用しない

主なる金肥

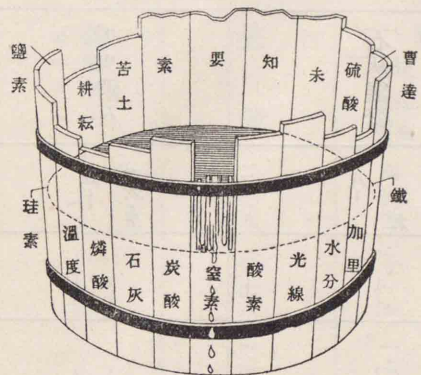
種類	肥料の成分		反応	原料	価格	性質	使用法	備考
	窒素	リン酸加里						
鱈煉	八三〇	五・六〇	〇・七〇	鱈煉	四等品 三・七五 五・四〇 長いが、脂肪を含むことが多い	半速効性、肥効が長い、脂肪を含むことが多い	① 木灰と併用(加里の補給)と油分の砕いて施す ② 産額減少の傾向がある ③ 土砂・鋸屑・堆肥・落花・生糞・米糠	① 良好で安全な肥料であるが比較的 ② 産額減少の傾向がある ③ 土砂・鋸屑・堆肥・落花・生糞・米糠
鱈搾粕	九七〇	四・〇〇	〇・五〇	鱈煉	三・九五	鱈煉 鱈煉 鱈煉	① 補肥(暖地では) ② 補肥(暖地では) ③ 補肥(暖地では) ④ 補肥(暖地では)	① 補肥(暖地では) ② 補肥(暖地では) ③ 補肥(暖地では) ④ 補肥(暖地では)
乾魚鱈	七五〇	三・七〇	〇・七〇	鱈煉	三・九五	鱈煉 鱈煉 鱈煉	① 補肥(暖地では) ② 補肥(暖地では) ③ 補肥(暖地では) ④ 補肥(暖地では)	① 補肥(暖地では) ② 補肥(暖地では) ③ 補肥(暖地では) ④ 補肥(暖地では)

硫酸アンモニア	米糠	油粕類			粉骨
		種油類 (内地産)	板大豆粕	大豆粕	
二一	二〇八	四・六五	七・五〇	三一四	
	三・七八	二・二五	一・二〇	二二一	
	一・四〇	一・二八	一・五八	二四	
性酸的理生	性酸	性酸	性酸	性基鹽	
素石人中空ムルシウカ 灰糞尿素空ウカ		雲藻	大豆	動物骨	
輸入 四・九四圓	内地無砂米 三七・五kg 水田に小、効果は 夏作に大、冬作に 小	支那産 二・五七圓 内地産 三・七五kg 四・三〇圓	板大豆 二・八〇kg 大豆 三・二七kg よい。	三七・五kg 遅効で、成長の長 三・五六圓 い作物に適する	
乾いて結晶したものは良品、アンモニア體窒素であるから土壌に吸収され易い	脂肪含量 一五% 肥効は、畑地に大、水田に小、効果は夏作に大、冬作に小	難 （フイチン）分解困難	脂質 板粕 八一〇% 浸出粕 〇・五—二%	① 基肥 ② 石灰と併用しない	
③ 補肥に必要がある	② 汚水または下肥と混ぜて腐敗中に混ぜるか堆肥中に施すには注意を要する	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	① 板粕は粉砕する ② 大豆粕粉砕器 ③ 燐酸加里併用 ④ 米糠中の酸素はフイチンを利用するから必ず少量を混用するがよい ⑤ 家畜飼料として糞尿を利用するがよい ⑥ 不良品（大豆粕中に少く）（土砂・木皮・鋸屑・柿漚など）	
① 水田の肥料に適する ② 燐酸加里及び有機物の適量を配合する	① 汚水または下肥と混ぜて腐敗中に混ぜるか堆肥中に施すには注意を要する	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	① 他油粕・魚肥に比し格安であるから多く使用される ② 米糠中の酸素はフイチンを利用するから必ず少量を混用するがよい ③ 家畜飼料として糞尿を利用するがよい ④ 不良品（大豆粕中に少く）（土砂・木皮・鋸屑・柿漚など）	
③ 補肥に必要がある	② 汚水または下肥と混ぜて腐敗中に混ぜるか堆肥中に施すには注意を要する	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	④ 汚水及び草木灰と混合腐敗した後用ひるのもよい	① 不良品（土砂・石灰・介殼・鋸屑・粉屑・石膏）	

過燐酸石灰	石灰窒素	チリ硝石
一九一 二〇・五	一八一 一九	一五一 一六・五
性酸	性基鹽	性基鹽的理生
燐 質	素 窒 空 イ ト 中 窒 カ 空 窒	硝 石
二八 kg 呎 一・三〇圓	五六・三 kg 呎 二・二五圓	三七・五 kg 四・五三圓
速効性、堆土・堆質 壤土に肥効が著しく、砂土に少い	土壌の殺菌・殺蟲の効がある、幼植物には有害である	硝酸體窒素であるから水に溶け易い
⑤ 石灰と混用した場合は、直接に土に施す	⑤ 堆肥と併用する	④ 水に溶かして、七—一〇%の水溶液に溶かす
④ 基肥及び補肥に	④ 堆肥と併用する	③ 降雨前に施す
③ 作物の茎・葉・根	③ 堆肥と併用する	② 水田の肥料に適する
② 窒素・加里肥料	② 堆肥と併用する	① 水田の肥料に適する
① 他有機質肥料を配合する	① 堆肥と併用する	
⑤ 石灰と混用した場合は、直接に土に施す	⑤ 堆肥と併用する	
④ 基肥及び補肥に	④ 堆肥と併用する	
③ 作物の茎・葉・根	③ 堆肥と併用する	
② 窒素・加里肥料	② 堆肥と併用する	
① 他有機質肥料を配合する	① 堆肥と併用する	
⑤ 石灰と混用した場合は、直接に土に施す	⑤ 堆肥と併用する	
④ 基肥及び補肥に	④ 堆肥と併用する	
③ 作物の茎・葉・根	③ 堆肥と併用する	
② 窒素・加里肥料	② 堆肥と併用する	
① 他有機質肥料を配合する	① 堆肥と併用する	
⑤ 石灰と混用した場合は、直接に土に施す	⑤ 堆肥と併用する	
④ 基肥及び補肥に	④ 堆肥と併用する	
③ 作物の茎・葉・根	③ 堆肥と併用する	
② 窒素・加里肥料	② 堆肥と併用する	
① 他有機質肥料を配合する	① 堆肥と併用する	
⑤ 石灰と混用した場合は、直接に土に施す	⑤ 堆肥と併用する	
④ 基肥及び補肥に	④ 堆肥と併用する	
③ 作物の茎・葉・根	③ 堆肥と併用する	
② 窒素・加里肥料	② 堆肥と併用する	
① 他有機質肥料を配合する	① 堆肥と併用する	

肥料の配合の仕方

肥料の配合の仕方 肥料には一種類で三要素の適量を含むものは殆どないから、数種の肥料を配合して施用するのが普通である。肥料配合に際しては、肥料の三要素の量をその作物の生育に必要な割合に配合することに注意しなければならぬ。即ち肥料成分から計算して、作物の所要量に過不足のないやうに各肥料の分量を決することが肝要である。若し或要素が不足する時は、他の要素が如何に豊富にあつても、收量は最も少い養分の量に従ふ。これをリ・ビー・氏の最少養分率といふ。



(案考氏クッネベド)標分養少最

次に肥料配合の一二例を示す。  
一、水稻の肥料配合の一例  
全國農事試験場の水稻肥料の總平均は一〇aにつき、  
窒素 九・〇八kg 磷酸 八・〇四kg 加里 八・一六kg  
である。この必要量を得るには、  
堆肥 五六二・五kg 大豆粕 三七五kg 木灰 四一・六kg  
強過磷酸石灰 一八・八kg 硫酸アンモニア 一八・八kg  
を配合すればよい。

二、桑の肥料配合の一例

種類	数量	成分		
		窒素	磷酸	加里
厩肥	一〇二五・〇kg	四三九kg	二〇三kg	五〇六kg
大豆粕	六七五・〇kg	四七三kg	〇七四kg	一三五kg
下肥	三五五・〇kg	二二五kg	〇四九kg	一〇一kg

肥料の配合が中性となるやうな配合例

窒素	硫酸	石灰	木灰	魚肥	硫酸	豆粕	下肥
加	加	同	同	同	同	同	同
里	里	里	里	里	里	里	里
里	里	里	里	里	里	里	里

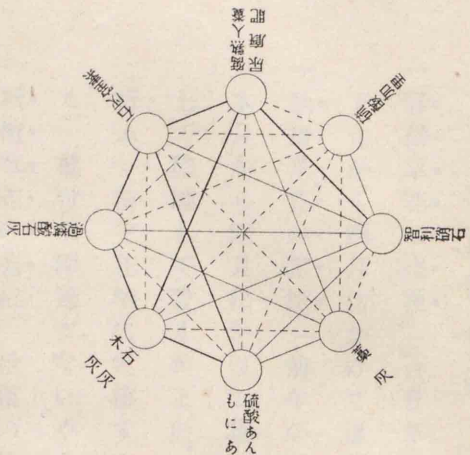
肥料の混合

肥料配合に際しては、肥料の三要素の含量の外、肥料の反応が中性に近くなるやうにし、なほ地力の維持、土質の改良などにもよく注意しなければならぬ。肥料配合は土地により作物によつてそれぞれ異にし、千遍一律であつてはならぬ。十分配合の設計をなし、分量を正確に施し、圃地に於ける栽培の結果を比較研究して適量を定めることが必要である。

**肥料の混合** 肥料は單用することが少く、數種を配合するのが普通であるが、これを施用するに當り、直接に混合してよいものとよくないものがある。多くの化學肥料は可溶性であるので、混合によつて互に作用して

計	過磷酸石灰	1・03kg	1	1・69kg	1
		1・27kg		4・95kg	7・42kg

肥料の購入



肥料配合の圖  
 太線は配合しなはらぬもの  
 細線は配合しなはらぬもの  
 点線は配合しなはらぬもの

成分に變化を來し、有効成分の損失を招いたり、作物を害したりする場合がありますから、よく注意しなければならぬ。

肥料の購入

肥料を購入するに當つては、保證票に注意し、市價の高低と分量とによつて計算して安價なものを購入す

ることが肝要である。なほ各自で購入するよりも、購買組合に加入してその配給を受けるか、組合の設けない地方に於ては、附近の農家と共同して購入するがよい。配合肥料または調合肥料と稱して、豫め配合調製して販賣される肥料が頗る多い。併し、この配合肥料は三成分の割合が各地の氣候

土質に適當してゐるか否かは頗る疑はしいばかりでなく、その價も廉くないから、農家の經濟上不利な場合が多い。だから、必要な肥料だけ購入して、自己の地方の土質氣候及び作物の種類に適する配合量を定め、共同して配合するがよい。

園藝作業  
三月

◎園藝作業 三月

- 一 春播草花の播種 百日草・松葉牡丹・向日葵・雞頭葉雞頭・トレニアなどは、本月下旬から四月にかけて播種する。
- 一 秋播草花の定植 前年の秋に播種し、假植を行ひ、霜除をして置いたものは、本月から四月にかけて花壇に植ゑ出す。花壇は豫め堆肥・油粕・灰などを施して整地して置くがよい。假植してある苗を掘り取るには、灌水して後に行ふ。苗を花壇に定植するには、草丈・花期・花色などを考へて適當に排列する。植付は深過ぎないやうに注意し、植付後は灌水を行ふ。
- 一 秋植草花の施肥 秋植の球根即ち水仙・チューリップ・ヒヤシンスなど、種々の鉢物及び秋播草花の根付いたものには、稀薄な液肥を施し、また支柱を與へる。
- 一 ダーリアの假植 前年の秋貯藏して置いたダーリアの球根を掘り出して、フレイム内に假植し、根冠の芽が明かになつた後、球根の分割を行ひ、再びフレイム内に假植して、霜害の心配のない頃花壇に定植する。

- 一、生垣の刈込
- 一、霜除覆物の撤去、芝生、生垣の施肥
- 一、蔬菜の播種

(イ) 茄、胡瓜、トマトその他の瓜類を播種する。此等は温床に於てし、二月から本月にかけて行ふ。

(ロ) 葱、甘藍、萵苣などを播種する。此等は冷床に於てし、本月下旬から四月にかけて行ふ。

(ハ) 小松菜、鶯菜、菠薐草二十日大根、夏大根、三寸胡蘿蔔、小蕪菁、山東菜その他の苣類を本圃に播種する。此等は本月下旬行ふ。なほ二十日大根、三寸胡蘿蔔、小蕪菁などは、秋までの間に随時播種することが出来る。小松菜、菠薐草、苣類は秋播のに劣るのが常である。

一、蔬菜の植付

(イ) 甘藷の植付 甘藷は本月にその塊根(蔕)を藁圍の温床に植込み、不定芽を發生させて苗とし、五月頃本圃に定植する。床の温度は攝氏二十五度内

外がよい。高温に過ぎると塊根が腐敗する虞がある。

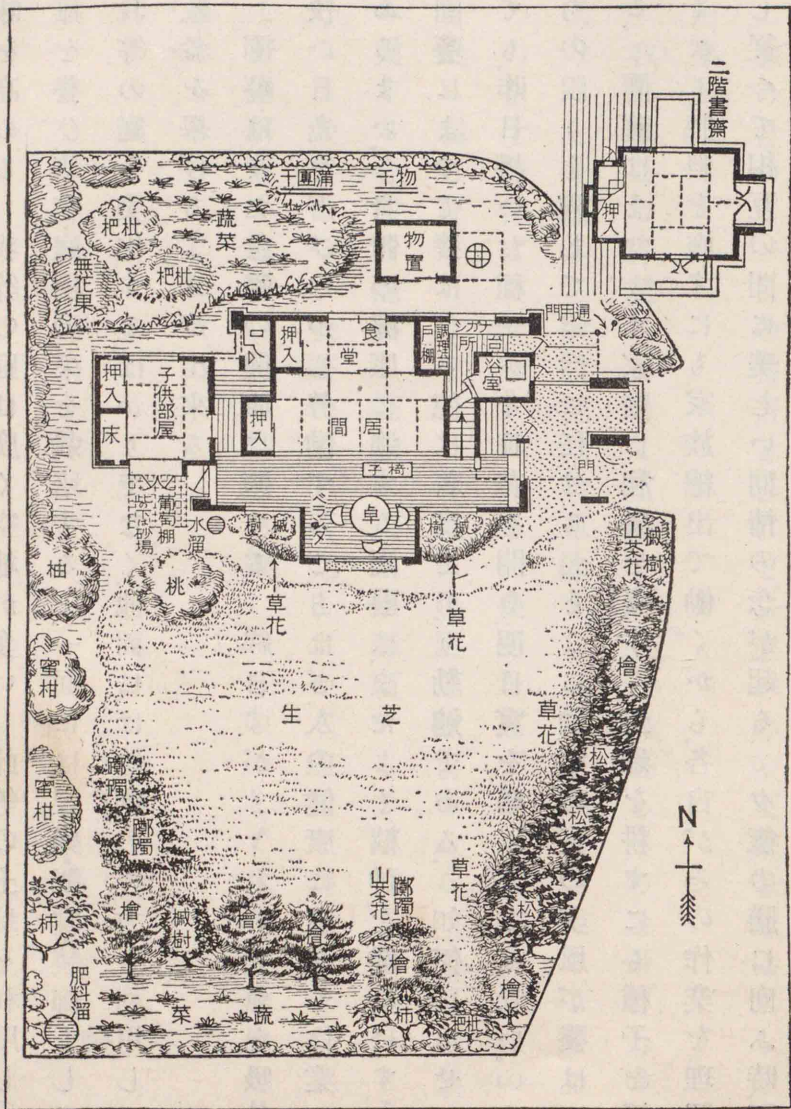
(ロ) 瓜哇薯の植付 瓜哇薯は本月畑に植付ける。この際塊莖の大きいものは縦に切半し、その切口に灰などを塗つて植付けるがよい。條間は約六〇cm、株間は約三〇cmの間隔を以て、基肥を施し、その傍に種薯を一箇づつ植付ける。

肥料はよく腐熟したものを用ひ、加里及び磷酸の不足しないやうに注意し、且つ主に基肥として施すがよい。下肥などは補肥として用ひ、多くは一回に止め、遅過ぎないやうにする。

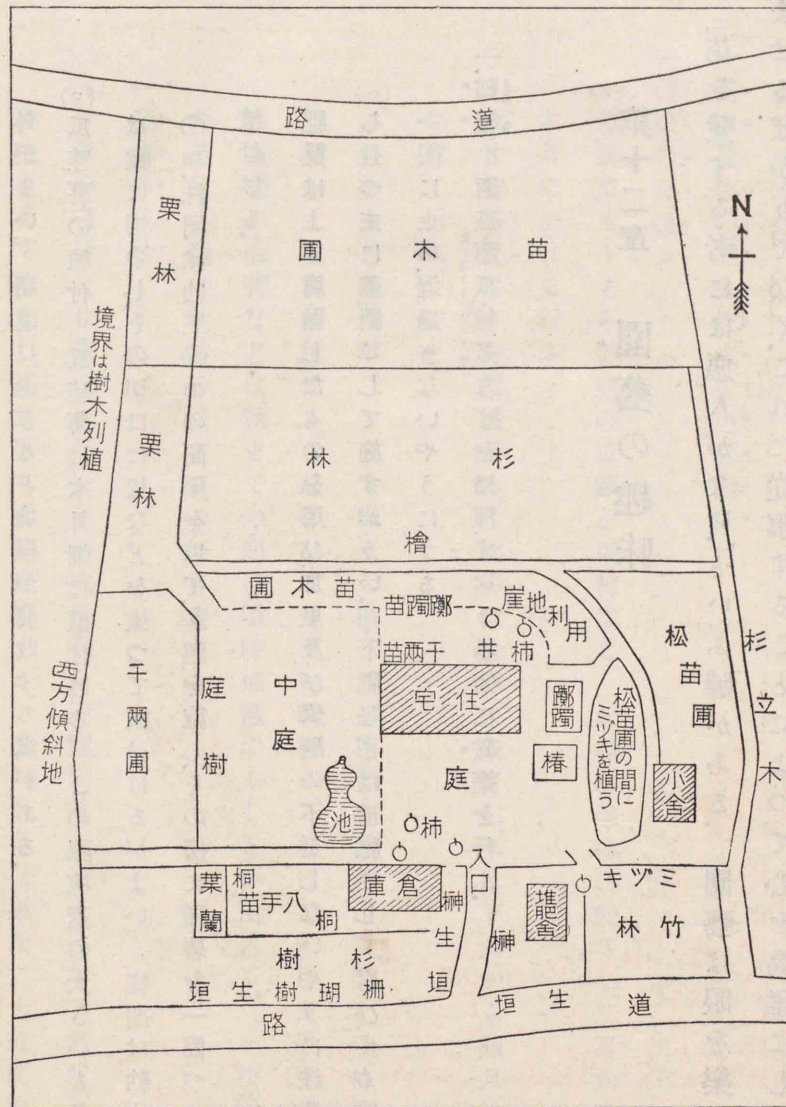
一、鞍築 西瓜、甜瓜、越瓜などを播種すべき場所に鞍築を行ふ。

第十二章 園藝の趣味

「花を愛する者には悪人がない」といふ諺がある。園藝は眼を楽しませるばかりでなく、これに従事することによつて心を高雅にし趣



圖用利地土の内地宅住外郊



圖用利地土の内地宅住村農



味を高める。我等の庭は廣く、空地が多い。此等の土地を利用して、雞を養ひ、草花、庭樹、野菜を栽培すると、一面には娛樂、觀賞、裝飾として我等の庭を美化するばかりでなく、他面には餘剩の勞力を利用して收益を擧げることが出来る。

園藝はまた身體の健康に適する。終日すがすがしい大氣を吸ひ、快い日光を浴びながら勞働することほゞ人の健康に適する作業はあるまい。身體の健康に適する園藝は、またよく精神を健全にする。園藝によつて養はれる徳は着實であり勤勉である。如何にあせつても、昨日播いた種子が、今日花を開き、明日實を結ぶことはない。人力の限りを盡して自然に任せる。そこに勤勉着實の美風が養はれる。園藝はまたよく家庭に和樂を齎す。土地を耕すにも、種子を播くにも、肥料を施すにも、家族總出で働くから、各自がその作業を理解し、従つて相互の間に美しい同情の念が起る。夕飯の膳に向ふ時、互

に慰め合つて、一日の勞苦を忘れて、一家一心の至樂を味はふことが出来る。

我等はこの作業によつて、植物の一生を觀察し、その生命の力の偉大なことを悟ると共に、肥培、除草、除害などの手入によつて、この生命の力を十分伸ばさせつゝ、ある尊い使命を感じる。我等が大氣の中で土に親しむことそのことが既に無限の歡喜である。園藝を楽しみ愛する心即ち園藝の趣味は、決して理窟からではなく、體驗から生れるものである。我等は努力研究によつて趣味を養ひ、趣味によつて努力研究を進め、日常の勤勞を楽しいものにして、我等の一生を意義あるものにしたたい。

終

標準  
書科教科業作  
〔篇藝園〕  
一卷



昭和六年三月四日印刷  
昭和十年十一月二十五日修正再版印刷  
昭和十年十一月二十五日修正再版發行

著者

佐藤寬次

發行者

東京市小石川區小日向水道町八十四番地  
株式會社 東京開成館  
代表者 松本繁吉

印刷者

東京市小石川區西江戸川町二十一番地  
佐々木俊一

發行所

東京市小石川區小日向水道町八十四番地

〔電話〕大塚(86)三三三—三三三五  
株式會社 東京開成館  
振替貯金口座〔東京第五三三二二番〕

本書掲載の挿畫は無  
斷複製轉載を禁ず

定價 金五拾錢

(印刷株式會社株式會社)

山陽中學校  
 野中蘭夫

東京新聞

（昭和）



東京新聞  
 昭和十一年十一月二十二日  
 第XXXXX號

東京新聞  
 昭和十一年十一月二十二日  
 第XXXXX號

東京新聞  
 昭和十一年十一月二十二日  
 第XXXXX號

東京新聞  
 昭和十一年十一月二十二日  
 第XXXXX號

東京新聞  
 昭和十一年十一月二十二日  
 第XXXXX號

東京新聞

昭和十一年十一月二十二日

